

うみがめニュースレター

UMIGAME NEWSLETTER OF JAPAN

No.107 2018



ウミガメ類ふ化幼体の流れ藻に対する視覚的反応 藤林 真・河津 勲・亀崎直樹	・・・ 2
セスナを用いた沖縄島南部および慶良間諸島海域のアカウミガメ交尾の観察 亀崎直樹・若月元樹	・・・ 7
2017年ウミガメ速報 日本ウミガメ協議会	・・・ 9
うみがめニュースレターに投稿される方へ	・・・ 31
日本ウミガメ協議会からのお知らせ	・・・ 33
編集後記	・・・ 34

■デジタル(PDF)版も利用できます

NPO 法人日本ウミガメ協議会のホームページ内にある専用サイト（うみがめニュースレターで検索、URLは http://www.umigame.org/J1/katsudou_newsletter.html）からネット上でデジタル版(PDF版)うみがめニュースレターをダウンロードしていただくことができます。デジタル版の利用が可能な方で、アナログ版（紙に印刷され郵便で届く従来の冊子）の配信中止をご希望の方は、お手数ですが、編集委員会 newsletter@umigame.org までご連絡下さい。経費削減に対する皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

■寄付のお願い

「うみがめニュースレター」は、小笠原村からの補助によって1989年5月に創刊され、2011年度以降は日本ウミガメ協議会より補助を受けて発行が継続されています。とはいえ、必要とするすべての方が情報に無償でアクセスできるよう、購読料はいただいていないため、財政状況は完全な赤字です。今後も皆様からの温かいご寄付をお待ちしております。切手でのご寄付も大歓迎、協賛広告も併せて募集しております。詳細はメールで newsletter@umigame.org までお問い合わせください。

郵便振替口座 10120-25391001 加入者 うみがめニュースレター編集委員会

連絡先 〒573-0163 大阪府枚方市長尾元町5-17-18-302 日本ウミガメ協議会内

Tel: 072-864-0335 Fax: 072-864-0535 e-mail: newsletter@umigame.org

■寄稿者へのお知らせ

本誌はウミガメに関する国内唯一の総合情報誌として、関連するあらゆる情報を取扱い掲載しています。生物学的知見はもちろんのこと、ウミガメに関わる民族、保護、論評や意見、会議報告なども含みます。様式は特に定めるものではありませんので、読者の皆様もどうぞお気軽にご寄稿ください。

■表紙の写真

沖縄県八重山郡西表島ハイミの南（リーフ外）で観察されたアオウミガメの交尾。サメの個体数推定調査の実施中に発見された。八重山諸島周辺ではアオウミガメの交尾が頻繁にみられる。（2017年5月18日、亀田和成撮影）

ウミガメ類ふ化幼体の流れ藻に対する視覚的反応

Visual response of sea turtle hatchlings for artificial floating algae

藤林真¹・河津勲²・亀崎直樹^{1,3}

Nao FUJIBAYASHI, Isao KAWAZU and Naoki KAMEZAKI

ABSTRACT

In order to predict the habitat of sea turtle hatchlings, the visual response to artificial algae was examined using hatchlings of loggerhead turtle *Caretta caretta*, green turtle *Chelonia mydas*, and hawksbill turtle *Eretmochelys imbricata*. As a result, hatchlings of loggerhead turtle and green turtle approached the artificial algae using vision, but hawksbill turtle did not tend to be close to the artificial algae. Also, there was a difference of hidden hours in artificial algae between the loggerhead and the green turtles. Even in the same species, the hidden behavior of the hatchling and juvenile were suggested to be different in the Pacific and the Atlantic.

Key words: sea turtle, hatchling, behavior, lost year, floating algae

はじめに

ウミガメの産卵地は種によって少しずつ異なっている。日本で産卵がみられるのはアカウミガメ *Caretta caretta*, アオウミガメ *Chelonia mydas*, タイマイ *Eretmochelys imbricata* の3種であるが、概ね茨城県以南の太平洋岸から南西諸島にかけてはアカウミガメ、屋久島以南の南西諸島にはアオウミガメ、沖縄諸島にはタイマイの繁殖場所がある (Kamezaki, 1989; 亀崎, 1991)。このような繁殖場所は種によってある程度、幼体の生存率、すなわち適応度が高い場所として選ばれていると考えられる。その繁殖場所が違ふことから、種によって幼体の生育過程や環境が異なっていることが予想される。すなわちこれまで論じられてこなかったふ化幼体の生活史にも種によって違いがあることが予想される。

ウミガメのふ化幼体は砂浜でふ化後、沿岸

から沖合へと磁場を利用して泳ぎ (Lohmann and Lohmann, 1994), 海流によって分散させられると考えられている (Witherington, 2006)。アカウミガメの北太平洋個体群の場合、産卵海岸は黒潮の流れに沿って分布しているが (Kamezaki et al., 2003), これは低緯度から高緯度に流れる強い海流である黒潮に幼体をのせることで、大洋に広く分散させているためと考えられている (Bowen et al., 1995)。

それに対してアオウミガメの産卵地は、屋久島以南の南西諸島と小笠原諸島にあり、黒潮の流軸より東側あるいは南側に位置している。これらの海域には、黒潮から派生する反流が概ね時計回りの方向に流れており、フィリピン海の複雑な流れの構造を形成している。アオウミガメの幼体はこの海流に乗って流され、生育すると考えられるが、その詳細は全く明らかにされていない。すなわち、アカウミガメとアオウミガメは幼体の生息地やその生態が全く異なっていると考えられる。

また、日本におけるタイマイの産卵地は奄美諸島以南に限られている (亀崎, 2001)。これらの海域はサンゴ礁の分布と一致し、本種の幼体の生育にサンゴ礁の発達が関係することが示唆される。

ただし、これまで知られているようにウミガメ類のふ化幼体は砂浜から外洋に出ていくが、その後の幼体が見つかることは極めて少ない (Carr, 1986)。ただ、少ないながらもアカウミガメの幼体が大西洋でホンダワラ属 *Sargassum* などの流れ藻に寄り添っているところ (Witherington, 2002; Schwartz, 1988), また同じく大西洋でアオウミガメの幼体も流れ藻の中にいるところ (Carr and Meylan, 1980) が発見されており、自然界では流れ藻に隠れて成長するものと考えられている。この期間はウミガメ類の幼体が人の目に触れにくく、Lost

1 岡山理科大学生物地球学部動物自然史研究室 〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町 1-1
nao.fujibayashi0108@gmail.com

2 一般財団法人 沖縄美ら島財団

3 神戸市立須磨海浜水族園

yearと呼ばれている (Carr, 1987). このように、大西洋では流れ藻に隠れて漂流するウミガメの幼体が発見されているが、太平洋で同じように流れ藻の中からウミガメの幼体が見つかった記録はない。つまり、太平洋においてはウミガメの幼体がどのように成長するのは全くわかっていない。

日本の砂浜ではアカウミガメ、アオウミガメ、タイマイの3種の幼体がふ化するが、大西洋と同じようにこれらの幼体が漂流するのならば流れ藻によって漂流すると考えるのが自然である。ところが、メキシコ湾流と黒潮を流れる流れ藻の量的比較を行った研究は見当たらないものの、大野 (1984) 等によると黒潮を流れる流れ藻はメキシコ湾流よりも少ないと推察される。つまり大西洋では流れ藻に隠れることで生存率を上げる戦略をとっているが、太平洋ではその戦略がとりにくいと考えられる。日本のウミガメの幼体にも流れ藻に接近し隠れる行動があるとするならば、幼体を引き寄せる要因として、視覚的な刺激と化学的な刺激が考えられる。

そこで今回は視覚的な刺激によって幼体が藻に引き寄せられ、隠れるかどうかを検証するために、北太平洋産のアカウミガメ、アオウミガメ、タイマイの3種の幼体を用いて、流れ藻に対する視覚的な反応を調べた。

材料と方法

供試個体

2016年に沖縄美ら海水族館の飼育個体が産んだ卵よりふ化したアカウミガメ2個体、アオウミガメ3個体、タイマイ3個体の計8個体を用いて実験を行った (図1)。ふ化日は、アカウミガメが2016年8月27日、アオウミガメが同9月6日、タイマイが同9月10日であった。実験開始時の幼体の甲長はアカウミガメ48–53mm、アオウミガメ55–59mm、タイマイ47–48mmであり、実験終了時の甲長はアカウミガメ50–59mm、アオウミガメ64–69mm、タイマイ53–57mmであった。実験を実施している間は餌としてスッポンマッシュ (伊藤忠飼料)、カメ用ペレット (キョーリンフード工業)、イカ・エビ・ホタテ貝の混じったシーフードミックス (イオン株式会社) を実験水槽の中で午前・午後1回ずつ与えた。人による投餌が、実験結果に影響を及ぼすことを防ぐために、上方から自動的に餌が落ちるようにした。餌を与える時は実験を行わず、実験を再開する場合は餌を食べきってから2時間後に行った。



図1. 供試された3種のウミガメの幼体
Figure 1. Hatchlings of three sea turtle species supplied for the experiment

実験方法

実験は、縦960mm×横960mm×深さ300mmの水槽で行った。その中に人工海水を60mmの深さに入れ、水温は23°C以上に保った。周囲からの視覚的な刺激を無くすために、水槽はシートで覆った (図2)。ウミガメ幼体を誘引する流れ藻のような形状をした物体への視覚刺激としてはプラスチック製の人工藻 (図3) を用いた。人工藻はランダムに水槽の四隅のいずれかに設置した。照明には爬虫類屋内飼育用蛍光灯 (ジェックス株式会社) を用い、毎日6:00–18:00の間自動点灯した。幼体の位置を記録するためにデジタルカメラ (OLYMPUS Stylus TG-4 Tough) を取り付け、水槽全体を上方から10分おきに自動撮影した。幼体の位置は水槽を縦横三等分して9つの区画 (A1, A2, A3, B1, B2, B3, C1, C2, C3) (図4) で示した。実験期間は2016年9月29日から2016年11月4日であった。

分析方法

ウミガメ幼体の人工藻に対する誘引の程度は以下の2つの指標で表した。

(1) 藻隠率 (もいんりつ)

ウミガメの幼体の人工藻に対する反応を表す指標として、まず、藻隠率を求めた。藻隠率とは、幼体が人工藻を設置した区画にいる割合 [藻を設置した区画にいた個体数 / (個体数 × 写真数) × 100(%)] とした。その後、各種の幼体が人工藻を入れた実験水槽においてすべての区画に均等に分布するかについてカイ2乗検定により分析した。

次に、時間帯による藻隠率の変化を確認するために、時間帯別にデータを分けて藻隠率を求めた。時間帯は、3時から9時を朝、9時から15時を昼、15時から21時を夕、21時から3時を夜とした。



図 2. 実験水槽の設置状況
Figure 2. Experimental tank
and condition



図 3. 人工藻
Figure 3. Artificial algae

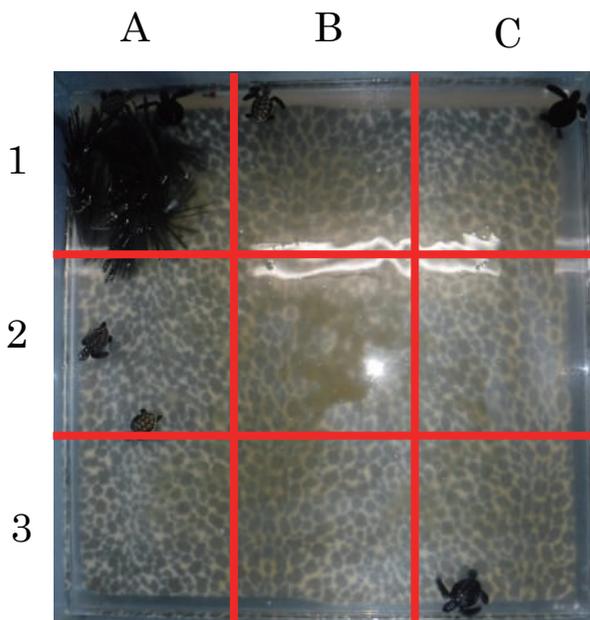


図 4. 実験水槽の区分け
Figure 4. Square division of experimental tank

(2) 近接度 (きんせつど)

幼体がいた場所を点数化して、種ごとの 1 回の人工藻への近接の程度を近接度と定義した。配点は、人工藻を設置した区画にいた場合を 2 点、その外側の区画にいた場合を 1 点、さらにその外側の区画にいた場合を 0 点とした。

例えば、A1 に人工藻を設置した場合、アカウミガメが A1 の区画に 1 個体、A2 の区画に 1 個体いたとすると、2 点 (人工藻を設置した A1) と 1 点 (人工藻を設置した区画の外側の区画 A2) で計 3 点となる。3 点をアカウミガメの個体数である 2 で割ると 1.5 となるので、アカウミガメ 1 個体あたりの近接度は 1.5 となる、このように種ごとの 1 回の実験における得点を個体数で割り、近接度を求める。この時、幼体がランダムに水槽にいた場合の 1 個体の点数 (期待値) は、9 区画の内 1 区画が 2 点、3 区画が 1 点、5 区画が 0 点ということから、 $1/9 \times 2 + 3/9 \times 1 + 5/9 \times 0 = 0.56$ となる。

これにより、0.56 より点数が高い程人工藻に寄っている傾向が強いということになり、点数が低いと人工藻を避ける傾向があるということになる。なお、各種の近接度については Kruskal-Wallis 順位和検定を行い、期待値との差異の程度を調べた。

結果

実験期間中に撮影された写真は 1106 枚であった。撮影された時間帯に大きな偏りは無かった。アカウミガメは 2 個体、アオウミガメは 3 個体、タイマイは 3 個体いるので、種ごとの全写真の出現回数はアカウミガメ 2212 回 (2 個体 \times 1106 枚)、アオウミガメとタイマイはそれぞれ 3318 回 (3 個体 \times 1106 枚) であった。藻を設置した区画に位置した回数はアカウミガメ 658 回、アオウミガメ 1052 回、タイマイ 392 回であった。その外側の区画に位置した回数はアカウミガメ 551 回、アオウミガメ 619 回、タイマイ 979 回であった。さらにその外側の区画に位置した回数はアカウミガメ 1003 回、アオウミガメ 1647 回、タイマイ 1947 回であった。

(1) 藻隠率

アカウミガメの藻隠率は 0~100% の間で変動したが、全体の平均では 29.8%、同じくアオウミガメでは 31.7%、同じくタイマイでは 11.8% であり、アオウミガメ、アカウミガメ、タイマイの順に低くなった。

また、各種の幼体が人工藻を入れた実験水槽内の各区画に均等に分布するかについては

全ての種で均等に分散しているとは言えず、特にアカウミガメとアオウミガメにおいては人工藻の存在する区画のカイ 2 乗値が他の区画よりも高かった。これによりアカウミガメとアオウミガメでは有意に人工藻のある区画にいることが明らかになった。一方、タイマイは均等に分布しないものの、人工藻のある区画にいる確率は相対的に高くはなかった。したがって、藻隠率には種差があり、アカウミガメとアオウミガメでは人工藻のある区画を選択し、そこに隠れるが、タイマイではそのような性質がみられないことが示唆された。

また、人工藻に隠れる時間帯は種によって異なっていた。朝、昼、夕、夜の 4 つの時間帯で実験データを分け藻隠率を比較したところ、それぞれアカウミガメでは 17.7%, 42.3%, 30.9%, 19.4%, アオウミガメでは 42.9%, 25.9%, 27.5%, 35.8%, タイマイでは、10.9%, 14.2%, 10.2%, 10.8% であった (図 5)。種内で藻隠率の最大値と最小値を比較したところ 3 種とも有意な差がみられた (U-test, $p < 0.01$)。すなわちウミガメ幼体の藻に隠れる行動には時間的なばらつきがあることが明らかになった。アカウミガメの藻隠率が最も高くなったのは昼、最も低くなったのは朝、アオウミガメの場合は最も高くなったのは朝、最も低くなったのは夜であった。有意に藻に隠れる傾向がみられなかったタイマイでさえも、藻隠率は時間帯によって差があり昼が高く、夕に低くなった。

(2) 近接度

1 データごとの近接度から、1106 データの近接度の平均及び標準偏差を求めると、アカウミガメ $0.84 \pm 0.61 (0-2.0)$, アオウミガメ $0.82 \pm 0.53 (0-2.0)$, タイマイ $0.53 \pm 0.42 (0-2.0)$ であった。アカウミガメとアオウミガメでは、ウミガメ幼体が水槽をランダムに泳いでいた場合の期待値 0.56 より高く、この 2 種は人工藻に接近する傾向がみられた。しかし、期待値群との間には有意な差がみられず (Kruskal-Wallis 順位和検定, $p > 0.05$)、近接度からは人工藻に隠れるという性質を確認することはできなかった。ただし、近接度には種差が認められ、アカウミガメとアオウミガメはタイマイよりも有意に高い近接度を示した (Kruskal-Wallis 順位和検定, $p < 0.05$)。タイマイはアカウミガメとアオウミガメより近接度が低く、人工藻に接近する傾向はみられなかった。

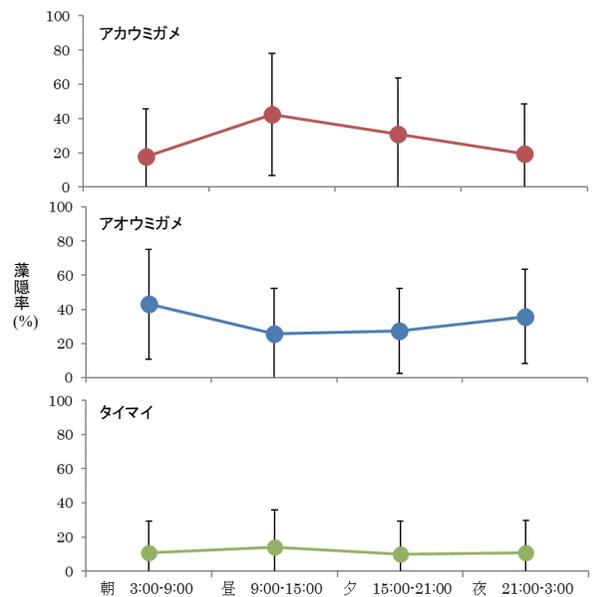


図 5. アカウミガメ、アオウミガメ、タイマイの藻隠率の 1 日の変化

Figure 5. Daily change of hidden rate in loggerhead turtle, green turtle, and hawksbill turtle

考察

3 種のウミガメの幼体が視覚的に流れ藻に対してどのように反応するかを調べた。藻隠率ではアカウミガメとアオウミガメの幼体は、藻のような浮遊物に隠れることが示唆された。今回用いた人工藻はプラスチック製のものであり本来の流れ藻から発する嗅覚刺激は排除されており、視覚的に人工藻に近づいたと考えられる。しかし、タイマイの幼体の藻隠率からは人工藻に隠れる傾向は見られなかった。タイマイはサンゴ礁が発達した海域の砂浜で産卵しふ化幼体はその海域に放たれる。貧栄養のサンゴ礁海域には当然流れ藻が少なく本種幼体には流れ藻に隠れる本能が備わっていない可能性がある。

一方、アカウミガメとアオウミガメは藻に隠れる傾向がみてとれた。これは少なからず太平洋でも大西洋と同じように流れ藻に隠れる本能が備わっていることが示唆され、両種が流れ藻とともに漂流することが想像された。しかし、流れ藻が多い大西洋 (Gower et al., 2006) とは違い、太平洋では流れ藻が少ないことから (大野, 1984)、太平洋のアカウミガメとアオウミガメは、大西洋のように流れ藻に強く固執しないように思える。

一方、大西洋でも同様の研究が行われており、アカウミガメとタイマイは人工植物に寄る傾向があるが、アオウミガメには無かったとされている (Mellgren et al., 2003)。これは

アカウミガメとアオウミガメに隠伏傾向を認めた我々の実験結果とは異なっている。つまり、アカウミガメでは太平洋・大西洋ともに藻に隠れる性質が認められるが、アオウミガメとタイマイの隠伏行動には地域間に格差がみられ、この傾向は両種の幼体の生育環境の違いを反映しているのかもしれない。アカウミガメの場合は太平洋では黒潮に、大西洋ではメキシコ湾流によって分散させられることが知られているが (Carr, 1987; Bowen et al., 1995), アオウミガメとタイマイの幼体の成長過程は明らかにされていない。今後それらの成長過程が明らかになればふ化幼体のこのような行動の違いも明らかになると予想される。

また、隠伏行動をとる割合は時間帯によって違いがみられ、その隠伏行動の多い時間帯は種によって違っていた。これも彼らの生態を反映している可能性があり、興味を持たれる。ウミガメ類 7 種中 5 種は汎世界的に分布しており、その形態はあまり変化させないが、行動はその生活環境に合わせて変化させているのかもしれない。

謝辞

ウミガメの幼体を提供して頂いた一般財団法人沖縄美ら島財団の皆様、実験水槽を貸与頂いた神戸市立須磨海浜水族園の皆様、研究にアドバイスを頂いた独立行政法人水産総合研究センターの岡本慶博士に御礼申し上げます。試供個体の飼育に関して協力頂いた岡山理科大学生物地球学部動物自然史研究室の皆様感謝します。

引用文献

- Bowen, B. W., F. A. Abreu-Grobois, G. H. Balazs, N. Kamezaki, C. J. Limpus, and R. J. Ferl. 1995. Trans-Pacific migrations of the loggerhead turtle (*Caretta caretta*) demonstrated with mitochondrial DNA markers. Proc. Natl. Acad. Sci. USA. 92: 3731-3734.
- Carr, A. 1986. The Sea Turtle: So Excellent a Fish. A Natural History of Texas Press. University of Texas Press, Texas. 280p.
- Carr, A. 1987. New perspectives on the pelagic stage of sea turtle development. Conserv. Biol. 1(2): 103-121.
- Carr, A. and A. B. Meylan. 1980. Evidence of passive migration of green turtle hatchlings in Sargassum. Copeia. 1980(2): 366-368.
- Gower, J., H. Chuanmin, B. Gary, and K. Stephanie. 2006. Ocean color satellites show

extensive lines of floating Sargassum in the Gulf of Mexico. IEEE Trans. Geosci. Remote sensing. 44(12): 3619-3625.

- Kamezaki, N. 1989. The nesting of sea turtles in the Ryukyu Archipelago and Taiwan main Islands. p. 342-348. In: M. Matsui et al. (eds.) Current Herpetology in East Asia. The Herpetol. Soc. Jap.
- 亀崎直樹. 1991. 琉球列島におけるウミガメ類の産卵場の分布とその評価 (予報). 沖縄生物学会報. 29: 29-35.
- 亀崎直樹・服部正策・鈴木博. 2001. 奄美諸島・加計呂麻島におけるタイマイ繁殖の初記録. 爬虫両棲類学会報. 2001(1): 16-17.
- Kamezaki, N., Y. Matsuzawa, O. Abe, H. Asakawa, T. Fujii, K. Goto, S. Hagino, M. Hayami, M. Ishii, T. Iwamoto, T. Kamata, H. Kato, J. Kodama, Y. Kondo, I. Miyawaki, K. Mizobuchi, Y. Nakamura, Y. Nakashima, H. Naruse, K. Omuta, M. Samejima, H. Suganuma, H. Takeshita, T. Tanaka, T. Toji, M. Uematsu, A. Yamamoto, T. Yamato and I. Wakabayashi. 2003. Loggerhead Turtle Nesting in Japan. p. 210-217. In: A. B. Bolten and B. Witherington (eds.) Loggerhead Sea Turtles. Smithsonian Books, Washington, D.C.
- Lohmann, K. J., and C. M. F. Lohmann. 1994. Acquisition of magnetic directional preference in loggerhead sea turtle hatchling. Exp. Biol. 190: 1-8.
- Mellgren R. L., M. A. Mann, M. E. Bushong, S. R. Harkins, and V. L. Keathley. 2003. Habitat selection and antipredator behavior in three species of hatchling sea turtles. Inter. J. Comp. Psychol. 16: 156-171.
- 大野正夫. 1984. 土佐湾沖の流れ藻の藻類学的研究. 日本水産学会誌. 50(10): 1653-1656.
- Schwartz, F. J. 1988. Aggregations of young hatchling loggerhead turtles in the sargassum off North Carolina. Marine Turtle Newsletter. 42: 9-10.
- Witherington, B. 2002. Ecology of neonate loggerhead turtles inhabiting lines of downwelling near a Gulf Stream front. Mar. Biol. 140(4): 843-853.
- Witherington, B. 2006. Sea Turtles. An Extraordinary Natural History of Some Uncommon Turtles. Voyageur Press, St. Paul. 132p.

セスナを用いた沖縄島南部および慶良間諸島海域の アカウミガメ交尾の観察

Observation of mating loggerhead turtles in the waters of
a southern part of Okinawa and Kerama Islands by aerial survey

亀崎直樹^{1・2}・若月元樹^{3・4}

Naoki KAMEZAKI and Motoki WAKATSUKI

北太平洋産のアカウミガメの雌は八重山諸島から関東地方にかけて産卵することが知られている。当然、それに先立って交尾が行われるわけだが、これに関する情報が極めて少ない。最も古い記載は内田 (1973) であり、それによると日本本土の沿岸の産卵地の沖合で交尾が行われるとある。しかしながら、日本で本種の交尾の記録があるのは興 (2001) が奄美大島の西方海域で、また、河津・岡部 (2014)、Kawazu et al. (2017) が沖縄島本部半島の西方海域で確認し、報告しているに過ぎない。筆者らは、沖縄島の西方にある慶良間諸島でアカウミガメの交尾が観察されるとの情報を得て、同海域をセスナで観察する機会を得た。そこで、交尾にいたる行動を起こしていると思われる複数のアカウミガメを確認したのでここに報告する。

方法

使用したセスナはいであ株式会社所有セスナ 206H (機番 JA35DR) である。機体の両サイドから筆者らおよびパイロットが海面に見えるウミガメを探した。ウミガメを発見したらその位置と個体数を記録した。セスナは2013年4月22日12時に那覇空港を離陸し、まずは沖縄島の南端にある喜屋武岬に向かった。その後、高度約300mでウミガメを探しながら海岸線にそって東に向かい、摩文仁の沖まで探索した。その後、慶良間諸島に向かい、途中糸満市のルカン礁を探索したのち、北に向かい渡嘉敷村の神山島、ナガンヌ島周辺を巡回してウミガメを探した。その後、渡嘉敷島、久場島、屋嘉比島、阿嘉島、座間味島、安室島、慶留間島、外地島、奥武島、モカラク島などを探索し15時に外地島にある慶良間空港に着陸した (図1)。途中、ウミガメを発見したと

きは巡回しながら高度を150m程度まで落とし、色彩や個体数を確認した。種は黒く見えるものをアオウミガメ、茶色く見えるものをアカウミガメとした。

結果・考察

今回の3時間の観察でアオウミガメ3個体、アカウミガメ8個体を確認した (表1)。また、観察された位置は図1に示した。アオウミガメ3個体はすべて沖縄島の沿岸、アカウミガメ8個体は慶良間諸島や沖縄島との間に点在する島嶼付近で観察された。アオウミガメは沖縄島で繁殖が行われ (内田, 1985)、さらに未成熟個体の餌場としてその沿岸が周年利用されている (平手, 2005)。つまり、成熟した個体と未成熟個体が生息するが、今回観察された個体は大きさから未成熟個体であると考えられた。

一方、沖縄島北部の定置網で観察した平手 (2005) によると、アカウミガメは1-6月に出現するとされ、本調査の実施日はそれに該当する。今回、わずか3時間の飛行機による観察で、8個体のアカウミガメが確認されたことから、この時期にこの海域に集中して出現することが考えられる。特に、前島および久場島の南端で見られたアカウミガメは2個体あるいは3個体で交尾行動と思われる行動を呈しており、この海域に交尾を目的として来遊した可能性が高い。なお、久場島沖で観察された3個体による交尾行動は、1個体のメスに対して複数のオスが交尾を試みる結果であり、Kawazu et al. (2017) も沖縄島本部半島の西方沖で観察している。

今回のアカウミガメの発見例で興味深いのは、すべての個体が島嶼の南端付近で観察されていることである。これは交尾海域のラン

1 岡山理科大学生物地球学部

2 神戸市立須磨海浜水族園

3 NPO 法人日本ウミガメ協議会附属黒島研究所

4 むろと廃校水族館

表 1. セスナからの調査で発見できたウミガメとその位置等
Table 1. Species, numbers and locations of sea turtles found by cessa plane.

位置	北緯	東経	時刻	種	個体数	状況
A	26° 04' 54"	127° 41' 38"	12:22	アオウミガメ	1 個体	沖縄島南で浅海を遊泳
B	26° 05' 57"	127° 44' 16"	12:28	アオウミガメ	1 個体	沖縄島南で浅海を遊泳
C	26° 07' 02"	127° 45' 30"	12:31	アオウミガメ	1 個体	沖縄島南で浅海を遊泳
D	26° 12' 04"	127° 26' 21"	13:08	アカウミガメ	2 個体	前島南端の西岸沖で交尾中
E	26° 07' 49"	127° 20' 22"	13:32	アカウミガメ	1 個体	渡嘉敷島の南端で遊泳
F	26° 13' 30"	127° 16' 51"	14:20	アカウミガメ	1 個体	座間味島西部白城の崎の沖で遊泳
G	26° 07' 02"	127° 45' 30"	14:25	アカウミガメ	1 個体	安室島南端で遊泳
H	26° 09' 35"	127° 14' 16"	14:46	アカウミガメ	3 個体	久場島の南端で交尾行動

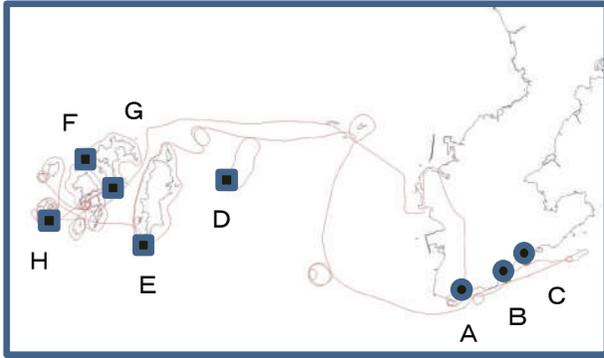


図 1. セスナによる飛行ルート。A-H はウミガメの発見位置で表 1 に対応している。

Figure 1. Observation route by cessa plane. Sea turtles were observed at eight points shown as A-H. Observation details are described in Table 1.

ドマークとして島の南側を認識している可能性を示唆するもので興味深い。

今回の調査や河津・岡部 (2014)、Kawazu et al. (2017) により、本部半島沖から慶良間諸島にかけての沖縄西方海域は北太平洋のアカウミガメの交尾海域であることが明らかになったが、本種の日本の交尾海域についてネット上の情報も含めて考察してみた。ネット上のアカウミガメの交尾の記録としては屋久島 (<http://yakuumi.exblog.jp/22614373/>)、沖永良部島 (<http://gtdivers.net/post/%E3%82%A2%E3%82%AB%E3%82%A6%E3%83%9F%E3%82%AC%E3%83%A1%E3%81%AE%E6%B1%82%E6%84%9B%E3%82%B7%E3%83%BC%E3%83%B3%EF%BC%81-10486>)、渡嘉敷島 (http://okinawabagus.com/blog/article_77/)、久米島 (http://www.umigame.org/J1/letter_photo.html) などでその写真が残されており、これらの海域で交尾が行われることは明らかである。さらに、筆者は 1984 年 4 月、八重山諸島石西礁湖ウマノハピーの東側の縁で活発に泳ぎ回るアカウミガメの雄を潜水中に確認しており、

さらに 2002 年 4 月 9 日に同海域でアカウミガメの成熟したオス 2 個体を石垣島のウミガメ漁師比嘉政宗氏の手で捕獲し、放流したことがある (島・亀崎、2002)。一方、九州南部での交尾に関する情報もある。鹿児島県の東シナ海に面した野間池で定置網漁を営む宮内叶氏 (日本ウミガメ協議会元理事) によると、定置網の中で交尾をしているアカウミガメを何回か見たという。また、海上保安庁によって撮影されたという宮崎県青島沖の交尾の写真が西・大牟田 (2013) に掲載されている。

以上の情報を総合すると、九州南部から南西諸島にかけての海域でアカウミガメは交尾を行っており、産卵地の分布する四国や本州の沿岸域では交尾は記録されていないことになる。そこで、生物学的な視点で海と関わりを持っている研究者でウミガメにも造詣のある高知県柏島の神田優氏 (黒潮実感センター)、さらに和歌山県串本の野村恵一氏 (串本海中公園) にアカウミガメの交尾に関する情報を聞いたところ、観察したことも、信憑性の高い情報も得たことはないという。従って、日本の産卵場の沖合では交尾するアカウミガメが見られるとする内田 (1973) の記述とは矛盾する。さらに Ishihara and Kamezaki (2011) は高知県室戸の定置網で死亡した 152 個体のアカウミガメ (雄: 46、雌: 106) の内、生殖腺から成熟していると判断された雄は 4 個体しか確認されず、この海域に成熟したオス、すなわち交尾を求めているアカウミガメのオスは極めて少ない。

これらの断片的な情報を総合すると、日本で繁殖するアカウミガメの交尾海域は南九州、特に薩摩半島の西岸から南西諸島を伝って八重山諸島までの間に存在し、四国から関東にかけての海域では交尾は行われていない可能性が高い。従って、九州東部から関東の日本本土の太平洋岸で産卵しているアカウミガメ

も繁殖期が始まる前にこれらの海域で交尾をしてから、各地の産卵海岸に分散するのもかもしれない。

引用文献

興克樹 2001. アカウミガメの交尾の観察例. うみがめニュースレター (50) : 20.

平手康市 . 2005. 竜宮城への招待 . P. 173-184 . 矢野和成 (編) 南の島の自然史 沖縄と小笠原の海洋生物研究のフィールドから . 東海大学出版会 , 神奈川

Ishihara, T. and N. Kamezaki. 2011. Size at Maturity and Tail Elongation of Loggerhead Turtles (*Caretta caretta*) in the North Pacific. Chelonian Conservation and Biology, 2011, 10 (2): 281-287

河津 勲・岡部晴菜 . 2014. 沖縄島西海域におけるアカウミガメの交尾期. うみがめニュースレター (100) : 2-7.

Kawazu, I., Okabe, H. and N. Kobayashi 2017. Direct Observation of Mating Behavior Involving One Female and Two Male Loggerhead Turtles in the Wild. Current Herpetology 36(1): 69-72.

西隆一郎・大牟田一美 . 2013. アカウミガメ

産卵地固執性調査および子ガメの脱出モニタリング手法の開発 . 鹿児島大学総合研究博物館 News Letter (33):20-22.

島達也・亀崎直樹 . 2002. 八重山諸島に來遊したアカウミガメの雄の人工衛星による追跡 . うみがめニュースレター (55) : 27.

内田至 . 1973. アカウミガメー大洋航海の謎を追う . アニマ 6(3) : 5-17.

内田詮三 . 1985. 南西諸島のウミガメ類 . 動物と自然 (15) : 22-26.

Summary

We conducted three hours of aerial survey using Cessna 206H on 22 April 2013. The survey areas were southern Okinawa Island and Kerama Island. We observed eight sea turtles during survey. Three of the eight observed individuals showed mating behavior. Previously, no observation of mating loggerhead turtles has reported near Shikoku and Honshu where have nesting beaches of this species. Using our observations and the past records, we infer mating of this species mainly occur the waters from the southern Kyushu through the Nansei Islands.

2017 年ウミガメ速報

A Circular Notice on Sea Turtles in 2017

日本ウミガメ協議会

Sea Turtle Association of Japan

(2017 年内に配信されたウミガメ速報を掲載しています。)

■ウミガメ速報 17 -1(1/19)

謹んで新年のお慶びを申し上げます。昨年は、旧来の事業を継続しながら、長期的展望に立ったうえで必要な見直し、新たな事業の準備、事務局の立て直し、そしてアカウミガメ産卵生態の謎解きにも汗を流した一年でありました。難儀はありましたが、皆様の温かいご支援ご協力によりそれぞれ目途が立ち、無事、新年を迎えることができました。事務局職員一同、厚く御礼申し上げます。今年も明朗快活をモットーに、ウミガメと取り巻く自然環境の健全な未来に向けて、皆様から信頼され必要とされる組織運営に努めて参ります。引き続きご支援ご厚情を賜りたくお願い申し上げますとともに、丁酉の年が、ウミガメと関係者の皆様方にとって良い年となりま

すことをお祈り申し上げます。日本ウミガメ協議会
会長 松沢慶将

元小学校への寄付金目録贈呈式 1 月 10 日に高知県室戸市の室戸世界ジオパークセンターで第 27 回日本ウミガメ会議室戸大会の最後の実行委員会を行い、その際に、ウミガメ会議での販売上の一部を室戸市立元小学校に寄付しました。元小学校は昭和 40 年から、命の教育、自然環境保護の一つとして、地域と学校が一緒にウミガメの保護活動を行っています。また、毎年室戸基地の職員がウミガメ出前授業を行っています。

アオウミガメの販売ついて一般の方から下記の問い合わせが複数ありました。静岡県で開催されたレプ
タイトル展で、アオウミガメが販売されていますが、展示販売というのは可能なのでしょうか？業者の書

面提示も沖縄業者のみの書面であり、販売をしていた業者が販売を了承している掲示は一切ありませんでした。このような取引が可能な場合、国際希少動物保護法など意味のない法律となりますうえに抜け道という考えになってしまいます。まず、教えて欲しいのが、捕獲業者は先の愛玩として確認していたか？また、愛玩として捕獲は申請が通るのか？本当に捕獲業者の承認のみで他の業者がウミガメの展示販売を可能なのか？お忙しいと思いますが、宜しいお願い致します。事務局より：黒島研究所の若月です。皆様、あけましておめでとうございます。たまに「ウミガメは個人で飼っているんですか」という問い合わせがあります。今回のアオウミガメの販売騒動では「飼いたい人」や「売りたい人」、「ついにやったかと感じた人」そして、「当事者に何らかのペナルティーを与えたい人」など様々な人間模様が垣間見られた気がします。1995年に静岡県湖西市で開催されたウミガメ会議で、宮崎野生生物研究会の中島義人さんが内陸のダム湖で発見された2個体のアオウミガメについて発表されたことを思い出しました。個人が淡水で飼育していたアオを海ではよくないと考え、水温の問題を無視してダム湖に放流したのかも知れません。「飼うな」「売るな」と言うつもりはありませんが、上述した先例もあります。大きくなりすぎて手に負えなくなった陸ガメの話もよく聞きますのでよく考える必要はありそうです。45万円という販売価格には驚きましたが、安易なチャレンジを削ぐには良いのかも知れません。黒島では海人からウミガメを引き取って放流していますが、昨年だけで約5千万円も海にばらまいたことになり。各水族館の担当者の中にもアオウミガメの飼育頭数に45万円を掛け……。新年初で下世話なコメント失礼致しました。

須磨水族園 石原様より (12/27) 今月、大阪湾内にて2件のウミガメ混獲情報があり、いずれも調査をしてみましたので、ご報告いたします。1件目：2016.12.7 兵庫県南あわじ市土生 定置網。アカウミガメ、生存、SCL 71.3cm、MCL 71.0cm、SCW 59.4cm、備考：左前肢先端付近欠損、左前肢脇欠損(タグの脱落痕のようにも見える)、処置：標識(インコネルタグ)を取り付けて放流、左前肢 JP59765、右後肢 JP59766。2件目、2016.12.26、大阪府阪南市尾崎漁協所属 底曳き網。タイマイ、生存、SCL 30.6cm、MCL 29.7cm、SCW 24.9cm、体重 2.78kg。備考：背甲後部にエボシガイ sp.2 個体付着。若干の痩せ。水温 16°Cほど。処置：須磨水族園に保護収容。

千葉県江口様より (1/4) お電話でご連絡いたしました海亀死骸発見の件、発見状況および写真をお送りいたします。日時：2017年1月3日 12時頃、場所：千葉県勝浦市興津海水浴場。事務局より：写真にはアカウミガメが写っていました。ELNAさんが調査に向かわれました。

矢口潜水様より (1/1) ダイビング中にウミガメのタグを撮影することが出来ました。2017 1/1 午後3時 ポイント名 カメ穴。水深 10m 水温 18°C 綺麗な個体でした。事務局より：小笠原海洋センターに配布した。ELNAの近藤様によると、2016年夏に父島へ産卵上陸した母ガメに装着した標識番号でした。

日本経済新聞 (1/10) 20年で子ガメ 2728匹 ウミガメ母さん日本記録更新中。名古屋港水族館で飼育されている1匹のアカウミガメ「No.6」が産んだ卵から2016年、23匹の子ガメが誕生した。20年間に計2728匹が生まれており、子だくさんの日本記録を更新している。アカウミガメは環境省が絶滅危惧種に定めており、No.6の子ガメの多くは同水族館が海に放している。15年には繁殖や保護活動に貢献したとして、日本動物愛護協会(東京)が「日本動物大賞・功労働物賞」をNo.6に贈った。特定のアカウミガメの繁殖を20年以上記録しているのは国内では同水族館だけ。詳細は⇒ http://www.nikkei.com/article/DGXLASDG10HC5_Q7A110C1CR8000/

神奈川県 日比野様より (1/11) 神奈川県の高井でウミガメの死骸がありました。事務局より：写真にはアオウミガメが写っていました。

北九州市 武田様より (1/12) 北九州市若松区でウミガメの死骸がありました。事務局より：写真にはアカウミガメが写っていました。若松区の環境課が対応して頂けるそうです。

福津市うみがめ課様より (1/16) 1月6日、恋が浦でアオウミガメの漂着がありました。甲長47cm、甲幅38cmでした。

株式会社シーテック様より (1/18) 本日、浜島にて1mを越えるウミガメの死骸がありました。浜島にはレジャー業者も多く出入りしますので、どのように対処したらいいでしょうか。事務局より：写真にはアオウミガメが写っていました。甲長測定後に、埋葬して頂くようお願いしました。

■ウミガメ速報 17-2(2/24)

匿名の方より (1/18) 島根県松江市島根町大芦の海岸でウミガメらしきカメが打上げられていました。動かないので死んでしまっていると思います。日本海にウミガメがいるとは思えないのです。事務局より：写真にはアオウミガメが写っていました。

日向市アカウミガメ研究会 黒木豊様より (1/18) 2月19日(木)市内のお倉ヶ浜にアオウミガメの漂着がありました。市民からの通報です。重さはおよそ7~8キロくらいで、まだ若いアオウミガメで

す。死因は首に釣りよのテグスが巻き付いていましたのでそれにより呼吸ができなくなり亡くなったのでしょう。(想像)アオウミガメは日向灘では滅多にみられないので、おそらく南のほうで首にテグスが絡み、息が苦しくなって黒潮に流され、お倉ヶ浜に漂着したのではないのでしょうか。大きさ(甲羅)、縦 40 センチメートル、横 36 センチメートルした。浜に埋葬しました。

高知県 大阪海遊館 入野様より (1/23) 高知県土佐清水市以布利、つぼやの浜にてウミガメを発見しましたので写真を添付致します。タグは・左前肢 JP9986A・左後肢 JPN101440。事務局より：当会の室戸基地より放流した個体でした。放流情報：日時：2016年12月14日、場所：三津漁港(室戸市室戸岬町)、種類：アオウミガメ、大きさ：SCL57.6cm、MCL55cm、CCL65cm、SCW46.9cm、CCW56cm、インコネル：9985A、9986A、P タグ：101440、処置：体サイズ計測・タグ付け後、放流

大坂事務局より (1/23) 中国からタイマイの再捕の連絡がありました。標識： 78686 (ジャンボ青色)、種：タイマイ、体重：75kg、捕獲場所：福建省 Pingtan Island、処置：健康状態確認後、写真撮影して放流、連絡：地元漁業者→Dr.Wang,Xiyan (Third Research Institute of State Oceanic Administration)→Jing Wang (Conservation International China Program)。事務局より：沖縄ちゅら海水族館が放流した個体でした。

神奈川県 櫻谷様より (1/25) 宮古島を旅行中にウミガメの死骸を発見しました。発見日時：2017年1月23日(月)、漂着しているポイント：池間島、イキゾービーチの端、岩陰。発見した個体の特徴：頭がありませんでした。事務局より：写真にはアオウミガメが写っていました。

市立しものせき水族館 柿野様より (1/27) ウミガメのストラディングがありましたのでご報告いたします。25日17:00頃連絡をいただき、27日16:30頃現地確認しました。発見日時：1月25日(水)、発見場所：山口県下関市吉母海岸岩場発見者：長本様、種類：アオウミガメ、状態：腐敗強度、対応：撮影、計測のみ、直甲長：92.0cm、直甲幅：66.0cm、曲甲長：98.6cm、曲甲幅：91.0cm

朝日新聞社より (1/31) (黒潮の半島：7) ウミガメが生む人の出会い海辺の木立に熊野古道九十九王子のひとつである千里王子と、千里観音がある。国道からは遠く、街灯はない。新月の夜、電車が通るときのほかは、真っ暗になるという。5月から8月、浜にアカウミガメが来る。昨年は252回上陸し122回産卵した。生まれた子は、ほのかに明るい海をめざすから、街灯があると迷ってしまうそうだ。昨年、新宮市の海辺の熊野古道を歩いたときに聞いたのだが、かつては、細い竹棒で砂浜を突き、ウミ

ガメの卵があたると黄身が付着するからそこを掘って卵を食べたという。ウミガメの卵は熱しても温泉卵のように白身は固まらない。夏の灼熱(しゃくねつ)の砂の下で生き抜くにはゆで卵になるわけにはいかないのだ

紀伊民報社より (1/31) ウミガメ保護で意見交換みなべ町和歌山県みなべ町でアカウミガメの保護や調査などに取り組んでいる、みなべウミガメ研究班(尾田賢治会長)は28日、同町谷口の町生涯学習センターで意見交換会を開いた。国や県、町の担当者、ウミガメ研究の専門家、観光関係者ら計21人が出席。活動の現状や課題を話し合い、今後は保全活動などに各団体が協力して取り組むことを確認した。

みなべ町教育委員会 前田一樹様より (2/6) いつもお世話になり、ありがとうございます。三重お疲れ様でした。ウミガメの漂着がありましたので、次のとおり報告します。種別：アカウミガメ、場所：みなべ町埴田地内 カフェドマンマ下、処理：2月6日、浜へ埋葬、備考：甲羅の上部に赤いペンキのようなものが付着。標識なし。

西表島野生生物保護センター 日名様より (2/8) お世話になっております。ウミガメの漂着個体(死亡)が発見されたので報告します。発見日：2016.2.8、発見者：吹抜清民(地元)、場所：赤井田川河口付近、種別：アオウミガメ、未計測、大きめ個体

高知新聞社より (2/13) ウミガメ保護に関心を 高知県黒潮町の高校生が海岸に啓発看板ウミガメが産卵できるよう、高知県幡多郡黒潮町で海岸清掃を続けてきた大方高校3年の隅野かなさん(18)の発案で、入野と田野浦にごみ拾いを呼び掛ける看板ができた。ウミガメにとって、いつまでもふるさとの海であり続けるように一との思いを込めた。高知県沿岸部は、近い将来絶滅の危険性が高いアカウミガメの産卵場所。黒潮町内でも入野や田野浦、佐賀地域に親亀が来るため、知事の許可を受けた黒潮町職員や住民が保護に取り組んでいる。

室戸基地 田中より (2/14) 室戸で放流した個体が北上しています。発見者の皆様ありがとうございます。●放流日時：2016年7月15日、場所：椎名漁港(室戸市室戸岬町)、種類：アカウミガメ、大きさ：甲長712mm、体重54.7kg、Pタグ：101368(左)、101369(右)、インコネル：9681A(右)、処置：体サイズ計測・タグ付け後、放流。再発見①発見日時：2016/10/31午後3時ころ、発見・連絡者：すどう様(漁師)、発見場所：香川県手島の沖、発見状況：四海漁協所属の底引き網に混獲、処置：元気、放流。再発見②発見日：2017.2.12、場所：三重県度会郡大紀町錦の大敷、処置：生きていたのでそのまま放流、再発見③連絡者：三重県水産研究所の様、発見者：尾鷲くき定置の漁師さん、発見日：2017/2/14早朝、処置：生きていた

のでそのまま放流

千葉県いすみ市森谷香取さまより(2/15)2月12日(日)朝7時45分からNHK総合テレビで「いすみの海」が放送され、好評でした。この映像には、2016年2月に、いすみの海のイセエビ、アワビ、サザエ、タコなどについて調査のため海中で撮影された映像が使われていましたが、もっとも注目すべきことは、海中の岩場からアカウミガメが顔を出しやがてフジツボなどのついた甲羅を見せながら泳ぎ去ってゆく姿です。この映像が2月という時期に撮影されたことで、北限域のアカウミガメの生態について私達が長年アカウミガメの保護活動が続ける中で想定していたことの証明となり、撮影の1年後にNHKで放送されたことにも意義がありました。

室戸基地 田中より(2/15)漂着情報がありました。場所:生見海岸(高知県安芸郡東洋町)、種類:アカウミガメ、状態:死亡、体サイズ:標準直甲長659mm、最小直甲長650mm、標準直甲幅523mm。処置:体サイズ計測後、砂浜に埋設、情報提供者:東洋町民のナカノさん

小村昌治さまより(2/17)再発見日:2017年2月17日、場所:鹿児島県上甕島の定置網、種:アカウミガメ、標識:ジャンボ青 JPN13016(左右ともについていた)、放流場所:野間池、処置:生きてそのまま放流補足情報:網揚げの際に、ウミガメを先に出す作業はどこでも苦労しているので、簡単にウミガメを捕獲するための装置を作ってはどうか。

石川県中村様より(2/18)今日海岸線を散歩していたら、ウミガメの死骸が砂浜に上がっていました。これまでこの様な大きなウミガメが海岸に打ち上げられたというのは聞いた事がありません。大きさは、1m30cm~1m50cm位です。色は全身真っ黒です。何という名前か、普段はこの辺りに生息しているものなのかどうか、わかったら教えて下さい。事務局より:同様の連絡は、のとじま水族館からも頂きました。写真には剥製用にきれいなオサガメが写っていました。田中俊之さまと白山市の職員の方々によって、調査と埋葬が行われました。

匿名の方から(2/18)沖縄県与那原町与那原東小学校裏の海岸に海ガメの死骸が打ち上げられています。事務局より:写真にはアカウミガメが写っていました。琉球大学の研究チームが調査に向かいました。

西表野生生物保護センター日名様より(2/20)ウミガメの漂着がありました。発見日:2017.2.20、発見者:南坂、場所:中野海岸、種別:アカウミガメ、標準曲甲長:44.0cm、最小曲甲長:43.5cm、曲甲幅:42.5cm、計測方法:メジャー

黒島研究所より(2/21)2017年2月21日黒島西の

浜で漂着がありました。アオウミガメでした。甲長501mm、甲幅410mm。沖縄はウミガメの漂着シーズンのピークです。悲しい連絡が続いています。

西表島野生生物保護センター日名様より(2/21)また、ウミガメの漂着個体(死亡)が発見されたので報告します。発見日:2017.2.21、発見者:吹抜清民(地元)、場所:古見赤石、種別:アオウミガメ、未計測。このほかにも先週金曜に祖納の美田良海岸でアオウミガメの漂着情報がありました。土曜日に職員が現場を捜索しましたが発見できませんでした。

■ウミガメ速報 17-3(3/16)

神戸市立須磨海浜水族園古満日出張所今北様より(2/25)昨日、水主組合の大敷にタグ付きのアオウミガメが入りました。事務局より:当会の室戸基地からの放流個体でした。日時:2017年1月31日、場所:高岡漁港(室戸市室戸岬町)、種類:アオウミガメ、大きさは:SCL76.5cm、MCL75.9cm、CCL79.6cm、SCW61.3cm、CCW77.2cm、Pタグ:101479、インコネル:10977A、10978A 処置:体サイズ計測・タグ付け後、放流

鹿児島県小村さまより(2/17)標識のついたウミガメを発見しました。発見日:2017年2月17日、場所:鹿児島県上甕島の定置網、種:アカウミガメ、標識:ジャンボ青 JPN13016(左右ともについていた)、処置:生きていたので、そのまま放流した。事務局より:鹿児島県野間池から放流した個体でした。「放流情報」日時:2017年2月12日、場所:鹿児島南さつま市笠沙町野間岬、種類:アカウミガメ、大きさは:SCL81.7cm、MCL79.6cm、CCL84.2cm、SCW63.4cm、CCW72.9cm、標識番号:ジャンボ青 JPN13015, 13016

室戸基地 田中優衣より(2/27)本日、漂着情報の連絡が入り、調査に行きました。[漂着個体]、場所:椎名漁港の食堂裏の浜(高知県室戸市室戸岬町)、種類:アカウミガメ、状態:死亡、体サイズ:標準直甲長732mm、最小直甲長724mm、標準直甲幅593mm、情報提供者:椎名大敷組合長の橋本さん。

石川県羽咋市環境安全課久保様より(2/28)ウミガメが漂着しました。連絡票とカメの写真及び、発見場所の位置図を送付します。事務局より:写真から、甲長約50cmのヒメウミガメでした。

宮崎県門川町教育委員会川越和子様より(3/1)地元の漁師さんから、底引き網にウミガメが2匹掛かったとの連絡があり、写真を撮りましたので添付します。1匹(タグあり)は体長110センチ、横幅62センチ、もう1匹は体長100センチ、横幅60センチでした。場所は延岡沖70mのところのことです。明け方帰って来た船なので、夜のうちに掛かっ

たと思われます。今年はアカウミガメが産卵に浜に上がった回数が少なく、見る事ができていなかったのが驚きました。この季節にこの辺で見られるのは珍しいのかな?と話しているところです。事務局より: タグ付きのカメは当会の室戸基地より放流した個体でした。[放流情報]日時:2016年4月24日、場所:高岡漁港(室戸市室戸岬町)、種類:アカウミガメ、大きさ:SCL81.5cm、MCL80.5cm、CCL84.6cm、SCW61.3cm、CCW71.5cm、Pタグ:101284、インコネル:9282A、9283A、処置:体サイズ計測・タグ付け後、放流

西表野生生物保護センター日名様より(3/1)ウミガメの漂着個体(死亡)が発見されたので報告します。発見日:2017.3.1、発見者:本原磨井子(西表野生生物保護センター)、場所:高那ホネラ海岸、種別:アオウミガメ、未計測

AFP 通信より(3/8)ウミガメから硬貨 915 枚摘出池に投げ込まれた賽銭のみ込むタイの首都バンコクにあるチュラロンコン大学の動物病院で6日、計5キロもの硬貨をのみ込んでいたウミガメに対し、7時間に及ぶ手術が行われ、腹部から硬貨 915 枚が摘出された。手術を受けたのは、タイ語で貯金箱を意味する愛称をもつ 25 歳のウミガメで、生息していた池に人々が幸運を願って投げ込む硬貨をのみ込み続けていたとみられている。

西表島野生生物保護センター日名様より(3/8)お世話になっております。ウミガメの漂着個体(死亡)が発見されたので報告します。発見日:2016.2.8、発見者:吹抜清民、場所:赤井田川河口付近、種別:アオウミガメ、未計測

沖縄県 飯塚様より(3/12)海中道路でウミガメの死骸がありました。かわいそうに甲羅が損傷?しているようです。事務局より:アオウミガメでした。琉球大学ウミガメ研究会が調査に向かいました。

西表野生生物保護センター 関東様より(3/13)ウミガメの漂着個体(死亡)が2例発見されたので報告します。1. 発見日:2017.3.12、場所:高那ホネラ海岸、種別:アオウミガメ、標準曲甲長 50.5cm 最小曲甲長 49.5cm 曲甲幅 46.1cm。2. 発見日:2017.3.12、場所:高那ホネラ海岸、種別:アオウミガメ、標準曲甲長 64.0cm 最小曲甲長 63.3cm 曲甲幅 58.9cm

■ウミガメ速報 17-4 (3/31)

宮崎県 大澤さまより(3/17)はじめまして。昨日、日向市の御銚が浦(みほこがうら)で悲しいことにウミガメが生きているようなそのままの姿で打ち上げられておりました。甲羅の大きさは 50cm 程でした。事務局より:写真にはアオウミガメが写って

ました。

宮崎県 日向市アカウミガメ研究会 黒木さまより(3/18) 当市の細島町御銚ヶ浦に漂着がありました。発見者は当市の御銚ヶ浦(細島町)を散歩されている折に見つけられたとのことでした。ウミガメはアオウミガメで甲羅の直長 47cm、直幅 36cm、重さはおよそ 8 キロほどでした。目玉がなくなっており、腹が異常に膨らみ少し腐臭がしました。死んで少し時間が経っているようでした。近くに埋設しました。事務局より:上記の大澤さまが発見された個体と同一個体でした。

室戸基地 田中より(3/21)放流したウミガメの再発見がありました。放流日時:2017年2月26日 場所:椎名漁港(室戸市室戸岬町) 種類:アカウミガメ 大きさ:SCL67.3cm、MCL65.7cm、CCL70.3cm、SCW55.8cm、CCW67.0cm インコネル:14487A、14488A Pタグ:101497 処置:体サイズ計測・タグ付け後、放流再発見日時:2017年3月21日 場所:奈半利漁港の定置網(高知県安芸郡奈半利町) 処置:定置網にタグ付きのウミガメがかかったので漁港へ運んだ。タグ記載の電話番号(事務局宛)に連絡をいれ、室戸基地で調査。海水かけ流しのタンクでウミガメを収容し、明日、沖へ放流する予定。(奈半利漁港内で放流すると漁港内からなかなか出ていかないようで、漁師さんが沖で放してくれることになりました。)連絡者:奈半利町漁協のタニグチさん

匿名の方より(3/23)今日ウミガメの死体を発見しました。北海道浦河郡浦河町浜荻伏の海岸です。道路から見え車を降り見に行きました。頭蓋骨が取れ白骨化してました。こちらまで流れ着く事があるのだと驚きました。

台湾 I-Jiunn Cheng 様より(3/24)台湾北部の Long Hole, Gongliao New Taipei City において、死んだタイマイの漂着がありました。標準直甲長 40 cm、体重は 6 kg でした。標識(JPN 8094-a, JPN7928)がついていました。事務局より:このタイマイは、黒島研究所より放流された個体でした。放流日は 2016 年 7 月 31 日、甲長 37.2cm、体重 6 kg でした。

福井新聞より(3/26)日本海側で初、クロウミガメ発見 定置網にかかる、松島水族館保護東太平洋やメキシコ東部の沿岸に生息するクロウミガメが今月 14 日、福井県高浜町の沖合で定置網にかかり、同県坂井市の越前松島水族館が保護したことが 25 日に分かった。NPO 法人日本ウミガメ協議会(大阪府)などによると、日本近海で確認されるのは珍しく、日本海側で発見されたのは初めてとみられる。同水族館によると、高浜町の沖合約 100 メートルの地点に仕掛けた定置網にウミガメが入り込んでいるのを、同町の漁師、野口久之さん(70)と息子の裕司さん(39)が発見。連絡を受けた同水族館は、ウミガメは通常暖かい海に生息するため、衰弱の恐れ

があると判断し保護した。クロウミガメを飼育する沖縄美ら海水族館などに確認し、21日に種類が判明。越前松島水族館は、黒潮に乗ってきたのではないかとしている。甲羅の長さ約60センチ、体重約35キロで雌と推測される。保護時は少し衰弱していたが、けがはなく、現在は元気に他のカメや魚と同じ水槽で動き回っている。6月ごろの一般公開を検討している。

宮城県 岩越さまより (3/26) ウミガメの死亡漂着がありました。場所は宮崎市青島サンクマールホテル近くの白浜海水浴場から見える場所です。事務局より：写真には白骨化したウミガメが写っていました。*****
事務局より (3/30) 本日、宮城県北浦から標識装着個体の死亡漂着情報をいただきました。頭部に外傷があったとのこと。標識ジャンボ青 7429 がついていたとのこと。この番号は今年の1月9日に日和佐ウミガメ博物館カレッタさんによって放流されたアカウミガメでした。

■ウミガメ速報 17-5 (4/9)

今年も南の方から初上陸・産卵の声が聞こえてきました。いよいよウミガメシーズンの到来です！

千葉県 seki さまより (3/31) 昨日ドライブで出かけた浜で大きなウミガメの死骸見ました。帰宅後、活動を知ったので写真などはないです。場所は千葉県富津市のあたりかなやというドライブインのレストラン裏の浜です。

NEWSALT より (4/1) 日本海では珍しいクロウミガメを越前松島水族館で保護井県高浜町の海で定置網にかかったところを越前松島水族館に保護されたウミガメが、日本近辺では珍しいクロウミガメだったことが3月21日に分かった。熱帯・温帯域に分布する種類で、日本ウミガメ協議会によると日本海で発見されたのは今回が初めてだという。ウミガメは、14日に福井県高浜町小黒飯の漁港付近の定置網にかかっているのが見つかった。水温はまだ低くウミガメが生きていくには厳しい状況だとして同館が保護した。大きさは、直甲長61cm、体重35kg。搬入時、特に衰弱した様子はなく正常に泳ぐことができ、痩せたり肺炎にかかったりしている様子もなかったという。同館が美ら海水族館と日本ウミガメ協議会に写真を送り確認を依頼したところ、クロウミガメと回答。クロウミガメはアオウミガメと近い種で外見も似ているが、甲羅の形が楕円よりハート形に近く、腹部・頭部の色が黒っぽいなどの特徴がある。メキシコの東部沿岸、東太平洋沿岸の熱帯・温帯域に分布する種で、日本近辺で見られるケースは少ないという。同館副館長の稲木明浩さんは、「様子を見ながら、今後一般公開も考慮していく」としている。

匿名の方より (4/2) 池間島のフナクスビーチに海

亀の死骸が打ち上がってました。今見たところ。*****
和歌山県 みなべ町教育委員会 前田さまより (4/6) いつもお世話になり、ありがとうございます。みなべ町教育委員会の前田です。今年度もよろしくお願ひします。ストランディングの通報があり、埋葬してきました。詳細は次のとおりです。種別：アカウミガメ 場所：千里の浜（ポイント11あたり）
状態：目だった外傷なし、タグなし

福岡県 福津市 うみがめ課 池田さまより (4/7) アオウミガメのストランディングがありましたので、下記のとおり報告します。発見日時：平成29年4月3日(月)10時00分 発見現場：福岡県福津市勝浦浜海岸発見者：福津市民 対応：腐敗が進んでいたためインナータグは確認できず。計測等を行ったのち埋設した。種別：アオウミガメ 性別：不明 標準直甲長：430mm 直甲幅 330mm

JJI.COM ニュースより (4/7) 【鴨川シーワールド】ウミガメの保護活動を紹介する特別課外授業鴨川シーワールド（千葉県鴨川市、館長：勝俣浩）では、千葉県内の学校を対象に2017年6月～11月の火曜日・水曜日・木曜日（※7月1日(土)～9月18日(月・祝)および期間中の祝日を除く）に実施する、「ウミガメ移動教室」の参加予約を2017年4月10日(月)9:00より千葉県内の学校を対象に、電話にて受付開始いたします。「ウミガメ移動教室」はアカウミガメの子ガメとともに飼育係員が学校を訪問いたします。ウミガメ保護活動を通して得られた知識を伝え、本物の子ガメを間近で観察することで、子どもたちに自然保護への理解や命の大切さについて広く知ってもらうことを目的としています。

沖縄ちゅら海水族館 河津様より (4/8) 2月10日頃、沖縄島仲泊で初産卵がありました。地元の人が撮影した写真からアカウミガメでした。事務局より：今シーズンの初産卵になります

黒島研究所 亀田より (4/8) 3月30日黒島西の浜でウミガメの初上陸がありました。足跡からアオウミガメと思われます。3か所に上陸していましたが、残念ながら産卵巣は確認できませんでした。

沖縄県 嘉陽さまより (4/9) 沖縄島奥のテトラの近くで、アカもしくはタイマイの上陸がありました。国頭では今季初の上陸です。

■ウミガメ速報 17-6 (4/24)

ELNA 小笠原事業所 近藤さまより (4/9) 先日、父島カメ漁で水揚げされた個体2頭に青タグが付いておりましたので、ご連絡いたしました。①2017/3/30 捕獲 ♀右前肢：青 7318？ 左前肢：7317？②2017/3/31 捕獲 ♀左前肢：青 91698 2頭

とも解体済みです。差支えなければ、放流時の情報頂きたく存じます。宜しくお願い致します。事務局より：鹿児島県野間池より放流された個体でした。

①2010年6月10日放流 種類：アオウミガメジャンボタグ：73179, 73180 ②2012年9月4日放流ジャンボタグ：91697, 91698

事務局より (4/12) 当会の岡崎鮎美が TOKYO FM “Honda Smile Mission” に出演しました。三重県紀宝町にあるウミガメ公園での奮闘ぶりが放送されました。

琉球新報より (4/17) 大浦湾で迷子の子ガメ 新基地抗議の市民が保護名護市辺野古の大浦湾で14日、新基地建設に抗議するカヌーチームの島袋正さん(56)が衰弱したアオウミガメを保護した。島袋さんによると、アオウミガメは長島から約100メートルの距離に設置された汚濁防止膜付近で海面に浮いていた。「近づいても逃げず、自力で泳げない様子だったので保護した」。連絡を受けた沖縄美ら島財団の動物管理チームが保護した。今後、治療に当たる。同管理チームによると外傷はなく、甲羅の長さ約40センチで、生まれて2~3年の子ガメ。

島袋さんによると、大浦湾では、アオウミガメやアカウミガメが泳いでいる様子がたびたび確認されている。島袋さんは「今回の直接的な原因は分からない」とした上で「(工事が進み)人が見ても海の環境が変わっている。生き物にとってはもっと大変なことだ」と語った。

三重県 熊野漁協 福山さまより (4/19) ウミガメが網にかかっていた。ウミガメのタグ部分が網に引っかかっていたので、タグを切って放流しました。場所：熊野市波田須町のエビ網 タグ：P型 101408 大きさ：目測 70~80cm 事務局より：2016年11月15日に室戸基地より放流した個体でした。

沖縄県 嘉陽さまより (4/20) 4月11日、本島の北端にあるユッパの浜でアカウミガメの産卵を確認しました。沖縄県 美ら海水族館より (4/20) 4月上旬に、本部半島でアカウミガメの産卵を確認しました。事務局より：沖縄県は産卵シーズンインしたようです。

室戸基地 田中より (4/20) 本日漂着情報の連絡が入り、調査に行っていました。場所：徳島県海部郡海陽町穴喰浦那佐(ホテル那佐の前の浜) 種類：アオウミガメ 状態：死亡体 サイズ：標準直甲長511mm、標準直甲幅423mm 処置：体サイズ計測後、浜に埋設 情報提供者：海陽町教育委員会事務局

和歌山県 環境省アクティブレンジャー 中村さまより (4/22) 本日、田辺市の天神崎清掃の際にウミガメの亡骸を見つけました。何ウミガメでしょう

か?事務局より：写真にはアオウミガメが写っていました。

■ウミガメ速報 17-7 (5/10)

紀南新聞より (4/24) ウミガメの産卵準備整う 七里御浜・王子ヶ浜 一斉クリーン作戦 アカウミガメの産卵期を前に海岸をきれいにしようと、環境省近畿地方環境事務所や地元自治体、自然保護団体などは23日、新宮市の王子ヶ浜と三重県の七里御浜海岸で「第5回七里御浜・王子ヶ浜一斉クリーン作戦」を実施した。王子ヶ浜では、新宮市王子ヶ浜を守る会の速水渉会長、棕野玲史顧問、中村誠二郎副会長はじめ会員や地元企業の従業員、一般参加者ら約500人が集まった。開会式で同事務所熊野自然保護官事務所の刈部博文首席自然保護官は関係者らの日頃からの環境保護活動に感謝を示すとともに「ウミガメたちが気持ちよく産卵できるよう、皆さんの協力で海岸を美しくしてほしい」と呼び掛けた。

紀伊民放より (4/25) ウミガメ観察の人数制限も みなべ町の千里の浜和歌山県みなべ町千里の浜でアカウミガメの産卵を観察する人が増えていることから、大人数での移動が危険なことやウミガメへのストレスを考慮し、同町は今シーズンから、許可については人数制限する場合があるとし、協力を求めている。千里の浜は全国有数のアカウミガメの産卵地。千里の浜を含む同町の海岸地域は吉野熊野国立公園にもなっている。毎年5月から8月ごろにかけては夜、アカウミガメが産卵のために上陸する。同浜で産卵を観察する場合は、町教育委員会の許可が必要。

神奈川県 下口さまより (4/26) 相模川の河川敷でアカウミガメの頭骨と思われる骨をみつけました。頭骨のみで他の部位が周りにないか探しています。相模川の河口からは30km程内陸の中流域の河川敷ですので、珍しくてご連絡させていただきました。

匿名の方より (4/29) 今朝8時にアオウミガメの足跡を発見しました。ビーチロックに阻まれたようで産卵はしていません。奄美大島の大浜海岸です。

当会奄美支部 水野より (4/29) 昨晚(4月28日)、龍郷の渡連キャンプ場前で上がったと連絡ありました!アカウミガメ二頭上陸産卵です。今年も始まりましたね。

香港大学 コニー・カーヤンさまより (4/30) Dr. Li and our local friends (name Wei) just found a dead female green turtle today (April30) with a plastic Japanese flipper tag engraved with "072 864" at Liouciou Island, southwestern part of Taiwan. The carapace length of the turtle is 100cm and its width 60cm. Please find enclosed the photos of the turtle and the tag, and feel free to share with our friends in Japan. Glad if you could let

us know the findings! Arigatou! 事務局より：タグに書かれていたのは当会の電話番号でした。タグはペアになっている片側のみの発見で、個体番号が記されている方は外れてしまっていたようです。

 沖縄県 SEA WATER diving service 小室さまより (5/1) お世話様です、石垣島のマンタポイントでのアオウミガメです。昨年の7月からの付き合いです。

 千葉県 根上さまより (5/2) こんにちは。早速ですが、富津市在住の鈴木さんから、岩根海岸の海亀ストラディングの連絡がありました。事務局より：鈴木さまより詳細を伺いました。種類：性別不明のアカウミガメ 全長約95cm 標識なし 場所：磯根崎(2~3kmの砂浜)(東京湾観音のすぐ下)

 紀宝町ウミガメ公園 岡崎より (5/3) 本日、漂着情報の連絡があり、調査に行きました。場所：三重県南牟婁郡御浜町阿田和(阿田和クリーンセンターの前) 種類：不明 状態：死亡 体サイズ：標準直甲長718mm、最小直甲長700mm、標準直甲幅571mm 処置：体サイズ計測後、浜に埋設 情報提供者：紀宝町役場

 愛媛県 井伊さまより (5/4) 愛媛県伊方町で、アカウミガメの死骸を発見しました。産卵を試みたものの、力つきたようです。場所は瀬戸内海側の田部です。台風等の時以外は波がかぶらない場所で足跡らしきものがありました。大きさは目測で甲長85cmでした。

 匿名の方より (5/4) Hi! Unfortunately yesterday i've found a dead seaturtle on the beach near JAXA launchpoint. Coordinates of the turtle 30.398932, 130.975485 - maybe, this info can be important for you. 事務局より：写真には落ちたタグも写っていました。詳細を調査中です。

 高知県 溝渕さまより (5/6) おはようございます。5月6日、四万十市平野サーフビーチにアカウミガメのストラディングがありました。甲長72㍎、甲幅6.2㍎。ノギス計測。目立った外傷無し。タグ無し。腐敗が進んで臭いが強くなっていました。穴を掘り近森さんと埋葬。

 高知県 室戸基地 田中より (5/6) 漂着情報の連絡が入り、調査に行きました。[漂着個体] 日にち：2017年5月5日 場所：室戸市室戸岬町灌頂ヶ浜 種類：アオウミガメ 状態：死亡 体サイズ：標準直甲長431mm、標準直甲幅353mm 処置：体サイズ計測後、椎名海岸の浜に埋設

 高知県 溝渕さまより (5/7) おはようございます。5月7日、黒潮町出口で産卵を確認しました。前日のものと思われます。直径は3.7㍎、足跡幅約8.5㍎。自然に任せるため、卵の総数はわかりません。

なお、5日ほど前に、隣の田野浦の浜に上陸痕がありました。川に落ち込んで帰海していました。事務局：今季、四国初の産卵情報です。

 神奈川県 フナキさまより (5/7) 先ほどお電話したフナキです。小さくした写真、お送りします。ご査収のほど、よろしくお願ひします。小笠原の小笠原海洋センターにも連絡し、写真を送りました。せっかくここまで大きくなったのに残念ですね。では、よろしくお願ひします。事務局より：アカウミガメのストラディング情報をいただきました。

 千葉県 岡田さまより (5/7) 湾の入り口の東側のタイドプールで、まず折れた背甲骨の先っぽを発見。薄暗くなってまして、中をのぞいたら何やら怪しいのが奥の岩に張り付いて立ってました！事務局より：お送りいただいた写真にはウミガメの骨が写っていました。

 沖縄県 琉球大学熱帯生物圏研究センター 山城さまより (5/8) 沖縄島の海岸でウミガメの漂着死体がありましたので報告します。日時：2017年5月5日 12時 場所：沖縄県南城市知念安座間港より約400m 西北西側の海岸(26°10'51"、127°49'19")。腐敗臭がきつくハエもたかっていたので詳細な観察はしていません。種類はわかりませんので事務局の方で同定方お願いします。甲長はペットボトルの大きさから77cmと推定しました。事務局より：写真にはアオウミガメが写っていました。

■ウミガメ速報 17-8(5/26)

 静岡県 湖西市 西野さまより (5/9) お世話になります。先程、電話をしました西野です。私の所に連絡をいただいた方からの画像です。場所は静岡県湖西市新居橋本海岸です。甲羅の大きさ1m55cm 甲幅79.6cm 事務局より：写真にはオサガメの漂着死体が写っていました。国立研究開発法人水産研究・教育機構の岡本さんらが調査に向かいました。

 静岡新聞より (5/11) オサガメ死骸を調査 研究者「貴重な情報源」世界最大級のウミガメで国際的に絶滅危惧種に指定されている「オサガメ」の死骸が漂着した湖西市新居町の遠州灘海岸で10日、静岡県内外の研究者が死骸を調査した。オサガメの中でも大型で、雄の成体(大人)の漂着は珍しいため、関係者は「貴重な情報が得られる」としている。水産研究・教育機構国際水産資源研究所(静岡市清水区)や豊橋市自然史博物館、横浜市のウミガメ保護団体から専門家計6人が集まり、湖西市職員も立ち会って協力した。同研究所はDNA型から生まれた地域を調べるため、肉片を採取した。オサガメの主な産卵地はインドネシアや中米だという。研究支援職員岡本慶さんは「かなり大きく、少なくとも15

歳以上。漂着するオサガメは子どもが多く、雄の成体は情報が少ない」と話す。同博物館は研究標本を作るため、参集者の協力でオサガメを解体し、全身の骨と甲羅を持ち帰った。安井謙介主任学芸員は「博物館の企画展などで一般公開する機会もあるかもしれない」と語った。

兵庫県 豊岡市 今井さまより (5/10) 竹野町竹野の網に入って死んでました。事務局より：写真にはアカウミガメが写っていました。

東京都 福永さまより (5/12) はじめまして。先日の連休に千葉県の海岸でウミガメの死体を見まして、一般的に多いことなのか、興味があり。インターネット検索していた際に、たどり着きました。少し時間がたっていますが情報連携いたします。目撃 2017/05/04 場所 千葉県鴨川市城崎海水浴場 海水浴エリアから離れた岩場と隣接した砂浜 状態 頭は白骨化してるようにみえました。写真を添付いたします。情報収集にお役にたてればと思います。事務局より：写真にはアカウミガメが写っていました。

高知県 中土佐町 谷岡さまより (5/14) ウミガメの死体漂着の写真です。場所：高知県高岡郡中土佐町小草（しお浜）事務局より：写真には白骨化したウミガメが写っていました。

四国放送より(5/14)ウミガメの上陸を願う(徳島県)ウミガメの産卵シーズンを前に美波町の大浜海岸で14日、ウミガメの上陸を願う神事がおこなわれました。この神事はウミガメの産卵地である美波町をPRしようと地元の観光協会が2年前からおこなっているものです。美波町によりますと大浜海岸では延べ119頭のアカウミガメが上陸した1995年以降、上陸回数は減少傾向にあり、去年はわずか7頭が上陸、産卵回数は2回にとどまりました。神事の最後には参加者が、海にお神酒やタイなどを捧げ今シーズン、ウミガメが数多く上陸し無事産卵するよう願いました。大浜海岸ではウミガメの保護監視期間が今月20日から始まります。

国際自然保護連合 日本自然保護協会 佐藤さまより (5/15) ウミガメのストランディングについて、日本自然保護協会の問い合わせフォーム経由で情報を頂きました。標識がついていたとのことで番号もお送り下さいました。Hi! I've found a dead sea turtle near Tanegashima space center. It has a sign with the number. It should be important to mark its death 'cause someone was interested in its destiny. It is here 30.398932, 130.975485. 事務局より：写真には標識タグが写っていました。現在調査中です。

室戸基地 田中より (5/15) 漂着情報の連絡が入り、本日調査に行きました。[漂着個体情報] 場所：室戸市室戸岬町清水(バス停 清水の前の浜) 種類：アオウミガメ 状態：死亡 体サイズ：標準直甲長

434mm、最小直甲長 432mm、標準直甲幅 385mm 処置：体サイズ計測後、椎名漁港の食堂裏の浜に埋設

高知大学 齊藤さまより (5/16) 昨日、以下のタグの付いたアオウミガメの混獲があり、連絡を受けたので報告します。2017/5/15 早朝 須崎市大谷漁協管轄の定置網 アオウミガメ(メス, SCL87.4 cm, BM 93.0 kg, 右前肢に青タグ JPN57717) 現在、宇佐の飼育施設に收容しておりますが、来週、臨海実習で出船する際に横浪半島外側の磯で放流する予定です。事務局より：10年前に鹿児島県野間池の定置網より放流された個体でした。

大分県 村瀬さまより (5/17) 別府湾にてアカウミガメと思いますが瀕死の状態で泳いでました。赤潮の影響かもしれません。

長崎県 平戸市 長谷川さまより (5/22) ウミガメの死体を見つけました。場所：長崎県平戸市千里ヶ浜 日時：2017.05.22 17:45 ごろ 体長：甲羅の部分で 30センチくらい 写真を添付いたします。あまり詳しく観察していませんが、白骨化が進んでいました。

室戸基地 田中より (5/22) 本日漂着情報の連絡が入り、調査に行きました。場所：室戸市佐喜浜町 尾崎海岸種類：アカウミガメ 状態：死亡 サイズ：標準直甲長 755mm、最小直甲長 735mm、標準直甲幅 584mm 処置：体サイズ計測後、砂浜に埋設 情報提供者：サーファーの方

千葉県 橋岡さまより (5/23) 先ほど遊びに来た海岸にウミガメが漂着していたのでお知らせします。日時：5/22 17:00 場所：千葉県内房那古船形の海岸 大きさ：1mほど 仰向けのため、甲羅の写真はありません。画像を添付します。よろしくお願ひします。事務局より：写真にはアカウミガメが写っていました。

宮崎県 門川町教育委員会 川越さまより (5/23) 今朝、町内の定置網にウミガメがかかっていたので連絡いたします。混獲(発見) 日時：平成 29年 5月 23日 午前7時頃 場所：門川沖の乙島(おとじま) 東側に位置する定置網 種類：タイマイだと思われる※写真添付 甲羅：長さ 45センチ(頭を含むと 56センチ) 幅 38センチ 今回は、発見してくれた漁師さんが沖に連れて行って放すとおっしゃっていましたが、今回のように発見された後、ウミガメをどうすればいいのかご教示いただくと助かります。よろしくお願ひいたします。事務局より：写真にはアオウミガメが写っていました。混獲でウミガメが元気な場合は、今回のように沖で放していただくのが良いかと思ひます。その際、ウミガメの手や足に標識タグが装着されていないか確認いただけますと、ウミガメの生態調査の貴重な情報となります。

 高知県 溝渕さまより (5/24) 平野で初産卵がありました。足跡幅約80cm、128個、直径4cm。雨が降ると卵巣の中が水浸しとなるような場所のため、高い場所(孵化場)に移植しました。

 静岡県 沼津市水産海浜課 小澤さまより (5/24) お世話になります。昨日、電話連絡いたしました、沼津市桃里地内のウミガメの死体に関する位置図や写真を送付します。なお、海岸管理者の静岡県沼津土木事務所管理課の許可を得て、同日、埋葬しております。それではよろしく願います。事務局より：写真にはアカウミガメが写っていました。

 和歌山県 日高新報より (5/24) みなべの千里の浜でウミガメ産卵始まる本州有数のウミガメの産卵地として知られるみなべ町山内の千里の浜で、アカウミガメの産卵が始まった。地元住民からの情報提供を受け、町ウミガメ研究班が22日に現地を調査したところ、残されていたウミガメの跡などから計4回の上陸があり、そのうち2回産卵していたことが分かった。18日夜から19日未明にかけてとみられ、昨年の初上陸の5月18日とほぼ同じ時期となった。今後上陸や産卵は本格化し、8月上旬ごろまで続く。ピークは6月中旬ごろから7月にかけてで、昨年は122回の産卵があった。

 室戸基地 田中より (5/24) 本日漂着情報の連絡が入り、調査に行きました。場所:室戸市室戸岬町 灌頂ヶ浜種類:アオウミガメ 状態:死亡 体サイズ:標準直甲長484mm、最小直甲長480mm、標準直甲幅388mm 処置:体サイズ計測後、椎名海岸の浜に埋設情報提供者:室戸ジオパークガイドの後藤さま

■ウミガメ速報 17-9(6/13)

 大分合同新聞より (5/25) ウミガメ 性格違う？ 東大と佐伯「はざこネイチャーセンター」佐伯市米水津間越(はざこ)の「はざこネイチャーセンター」で23日、ウミガメの個体ごとの性格を調べる研究が始まった。東京大学大気海洋研究所(千葉県柏市)と同センターを運営するNPO法人おおい環境保全フォーラムの共同プロジェクト。3年かけて調査し、良好な結果が得られれば保護活動などに生かす方針。米水津湾の定置網に掛かり、センターで保護しているアオウミガメを水槽に入れ、真上からビデオカメラで撮影。水槽に鏡やボールを入れたり、音を鳴らす、光を当てるなどし、ウミガメがどのような行動を取るか1匹ずつ観察する。同研究所に所属する日本学術振興会の工藤宏美特別研究員(39)によると、トカゲやヘビ、魚類などは1匹ずつ性格が違うことが分かっており、ウミガメも同様と考えられている。もし生息環境が悪化し、他の場所に移す場合、見たことのない餌でも食べるような柔軟な性格なら生き残れるため、そうした個体を簡単

に調べられる方法を探る。

 Dr. Lo Liu-chih さまより (5/25) We found a dead hawkbill with tag-"RETURN KUMEJIMA JAPAN"number 83 in Penghu, Taiwan in January 2017. Could you contactwith us? 事務局より：現在調査中です

 中日新聞より (5/26)「ウミガメ隊」浜を守るぞ 篠島で結団式アカウミガメの産卵地として知られる南知多町篠島の前浜で二十四日、浜の清掃活動をする「篠島ウミガメ隊」の結団式があった。ウミガメ隊は二〇一一年に篠島小学校の児童数人が自主的に浜のごみ拾いを始めたことを機に翌年、全校児童で結成。毎年、産卵シーズンに合わせて活動している。過去二年間はウミガメの産卵は確認されていない。

 千葉県 習志野市 高橋さまより (5/26) 5月23日早朝に撮影したウミガメの漂着死体の写真をお送りします。比較のために載せたボールペンの全長は14.0cmです。レンズの焦点距離は15mmですから35mm換算で23mm。場所は千葉県大房岬自然公園内のタイマイ浜でした。その日の日中には浜には何もなかったように記録されていたので、早朝公園のビジターセンターのかたが然るべきところに連絡して早々に処理(調査)されたものと思われま。何らかのご参考になれば幸いです。事務局より：写真にはアカウミガメの亡骸が写っていました。

 高知県 四万十市 溝渕さまより (5/28) 5月27日、四万十市のキャンプ場(とまろっと)下の砂利浜に上陸、産卵できずに帰ったカメです。甲長95㎝、甲幅90㎝。朝陽が昇って、慌てて帰海しました。波打際から7メートルほどの所。

 神奈川県 高木さまより (5/29) 目撃者も多く、死後かなり経ってるようなので、既に把握されているかもしれませんが、ウミガメの死体を見かけましたのでお知らせします。(写真はありません。) 目撃日時 2017年5月28日 12:00 場所 神奈川県三浦市三崎町城ヶ島 馬の背洞門から城ヶ島灯台方面へ200m程の砂地 砂地と海の間には岩場があり、迷い込んで出られなくなった感じです。大きさ、目測で甲羅の長さが70cm程度 腐敗が進んでいて、死後1週間程度は経っていそうです。

 神奈川県 石井さまより (5/29) 産卵上陸はまだ確認していませんが、タグ付きウミガメの死骸漂着がありましたので、ご報告いたします。アオウミガメ、未成熟オス(精巣確認)左後肢 JP88553 右後肢 JP88554 直甲長383mm、直甲幅322mm、精巣長51mm。精巣幅8mmでした。以上です。事務局より：すみだ水族館が2014年に小笠原より標識放流した個体でした。

福岡県 福津市ウミガメ課 池田さまより (5/29) アカウミガメのストランディングがありましたので、下記のとおり報告します。 発見日時平成29年5月29(月)10時00分頃 発見現場 福岡県福津市勝浦浜海岸発見者 宗像市民 確認日時平成29年5月29日(月) 11時30分頃現認者 福津市うみがめ課(花田、池田)対応 腐敗が進んでいたのインナータグは確認できず。計測等を行ったのち埋設した。 種別アカウミガメ 性別不明 標準直甲 770 mm、直甲幅 630 mm タグ：未確認 フジツボ：無 外傷：不明

***** 千葉県 岡田さまより (5/31) 5/30/2017 千葉県館山市伊戸海岸にて、漁港の網干し場で、ウミガメの骨の破片を2個と、肩の骨を発見しました。

***** 徳島県 阿南市市民部文化振興課 天羽さまより (5/31) 本日、阿南市中林海岸にてウミガメの足跡を確認しました。足幅90cm程。海岸の南端付近で足跡を発見。ピットの形跡はあるが、卵は確認できなかった。

***** 毎日新聞より (5/31) 産卵第一号 九十九里浜 千葉九十九里浜にウミガメが上陸し、産卵の季節がやって来た。白子町五井の海岸に30日早朝、海岸の清掃活動をしている「九十九里浜の自然を守る会」の会員が、アカウミガメの上陸・産卵を確認した。今年第1号という。 町によると、海と砂浜をアカウミガメが往復した足跡と産卵の跡を確認。高波によって卵が流出する心配があり、町役場担当者らが卵を安全な場所に移した。卵は125個あり、ふ化して海に戻るまでの2カ月間、見守るといふ。九十九里浜一帯では8月下旬までアカウミガメの上陸・産卵が繰り返される。町環境課は「今年はこれらからどんどん上陸してくるのでは」と期待している。

***** 石川県 のとじま水族館 池口さまより (6/5) ウミガメの漂着がありました。 日時：5/28 種：アオ 生死：生きていたが翌日死亡標識：無 計測：メジャー 甲長 45cm、甲幅 38cm、体重 8.7kg 処理：解剖後投棄

***** 鹿児島県 匿名の方より (6/5) ウミガメの産卵がありました。鹿児島県、錦江町の砂浜です。父が一回、卵確認のため、掘り出しました、その場所に埋めてあります。砂浜に波消しブロック造作で重機が入っていたりするので、簡単な柵はしているみたいです。

***** 沖縄県 林さまより (6/5) 先月から屋久島永田地区にて、屋久島うみがめ館にもご協力いただきながらフジツボ調査をさせていただいています。昨日、前浜に上陸したアカウミガメの左前肢にインコネルタグ 28436 番が付いていたので問い合わせです。頭部も背甲縁もボコボコの状態で、パピロマに冒されているような印象でした。ボコボコの部分にはキリ

カブフジツボ *Tubicinella cheloniac* が多数付着しており、体表上にも多数のフジツボ類ほか付着生物が確認できました。当日計測では、MCL 95.8cm, SCL 97.2cm, SCW 71.1cm の大きな個体です。 事務局より：2002年に屋久島ウミガメ館で標識装着した個体でした。

***** 外房経済新聞より (6/5) 御宿海岸でウミガメの産卵に備えビーチクリーン 鳥のデザインのゴミ袋使う御宿町の御宿海水浴場(御宿町須賀)で6月3日、ウミガメの産卵に備えてビーチクリーン活動が行われ、清掃後にはビーチヨガも開かれた。主催はヨガイベントを企画・運営している「LOVE YOGA BEAUTY」。

***** 沖縄タイムスより (6/6) ウミガメ、AKB48 総選挙の会場で産卵 砂浜囲って看板立てて NPO 法人「ふ化まで見守って」 地元や観光客に人気がある沖縄県豊見城市豊崎の美(ちゅ)らSUNビーチで4日、ウミガメの卵が確認された。親ガメが砂浜を歩いたような跡もあった。約100個、約2カ月後にはふ化するという。17日には、人気アイドルグループ、AKB48の選抜総選挙が予定されており、県内外から大勢のファンが訪れると予想される。NPO法人日本ウミガメ協議会の若月元樹さん(42)らは「産卵場所をそのままの状態で保存し、ふ化まで、温かく見守ってほしい」と呼び掛ける。

***** 毎日新聞より (6/9) アカウミガメ産卵シーズン到来 徳島の海岸に続々上陸アカウミガメの産卵シーズンに入り、徳島県南部の海岸で上陸が見られるようになった。産卵地として国の天然記念物に指定されている美波町の大浜海岸では、2日以降に延べ5頭が上陸し、4頭が産卵(8日時点)。3度目のお産の地に大浜を選ぶ母ガメも確認され「浜を気に入ってくれたのかもしれない」と喜ぶ声もある。

***** 神奈川県 長野さまより (6/10) 神奈川県逗子の逗子海岸の小坪寄りの波打ち際にウミガメの死体が流れついていました。

***** 紀伊民放より (6/10) ウミガメ産卵の季節 みなべ、千里の浜和歌山県みなべ町山内の千里の浜が、アカウミガメの産卵シーズンを迎えている。本格的な調査が始まった9日夜から10日朝にかけては2回の上陸を確認したが、産卵には至らなかった。千里の浜ではNPO日本ウミガメ協議会やみなべウミガメ研究班、青年クラブみなべが調査・保護活動に取り組んでいる。今シーズンは5月22日に、みなべウミガメ研究班がアカウミガメの上陸4回と産卵2回の痕跡を確認。今月下旬から7月中旬にかけてが上陸・産卵のピークで、8月中旬ごろまで続く見通しという。

■ウミガメ速報 17-10(6/26)

和歌山県 湯浅町 平良さまより (6/5) 今朝ウミガメが上陸しているのを見ました。卵の確認はしてないが、役場にも頼んで保護柵をしてもらっています。事務局より：今回は産卵していませんでした。数年前ですが、この浜のすぐ北でも産卵があり、子ガメが孵化したようです。

東京都 神津島漁協さまより (6/6) 5/29 (月)、東京都神津島西側・長浜海岸沖約 100m付近で死んで浮いていました。近付いたところタグをつけていたので取り外しました。あまり腐食していなかったので、死んで間もなかったと思います。詳細等わかりましたら、お知らせください。ジャンボタグ (黄) 92311, 92312 ジャンボタグ (白) 600 事務局より：2014 年 5 月に母島において、うみがめ漁により捕獲をされ、産卵後に放流された個体でした。

高知県 四万十市 溝渕さまより (6/12) ウミガメのストラディングがありました。平野浜西側。甲長 42cm、甲幅 40cm アオウミガメ。

沖縄県 渡嘉敷島 池松さまより (6/13) 渡嘉敷島にて産卵跡を見つけましたので報告します。1-3 は 6/7 朝島の南端、東側アラシノー 4 は東海岸のポイントです。最後はそれぞれの大きかな位置です。

徳島新聞 青木さまより (6/14) ウミガメの足跡写真をお送りします。足跡は、波打ち際から 80mほど上陸し、砂浜に穴を掘り、さらに 10mほど内陸まで進んだ後に Uターンし、右に左に迷走しながら海に戻っていました。砂浜に掘られた穴は、約 30cm×約 20cm の楕円形で、深さは約 40cm。外から見る限りでは、中に卵は確認できませんでした。なお、足跡の楕円形 1 個の大きさは約 35cm×約 23cm、深さ 3~4cm でした。

沖縄県 池松さまより (6/15) ウミガメの上陸がありました。写真届いて良かったです。足跡を近くで撮影したものがアラシノー遠景で撮影したものがクルマイです。いずれも渡嘉敷島東海岸。最近はイノシシが卵を掘り返すことも多いようで、心配しています。

宮崎県 門川町教育委員会 川越さまより (6/16) 今朝、門川町庵川漁港の漁師さんからウミガメ混獲の連絡がありました。写真を添付して報告いたします。混獲 (発見) 日時：平成 29 年 6 月 16 日 (金) 午前 6 時頃 場所：門川沖の乙島 (おとじま) 東側に位置する定置網 甲羅：長さ 60 センチ (頭を含むと 70 センチ) 幅 48 センチ 記録した後、漁師さんが沖に連れて行って放しました。事務局より：写真にはアオウミガメが写っていました。

読売新聞より (6/17) 産卵 諦めないウミガメ美波町の大浜海岸で、砂浜に何度も上陸しながら、1回

の産卵数が少ないアカウミガメがいて、関係者らが気をもんでいる。通常は 1 回で 100~150 個を産むが、このカメはせいぜい 20 個。今シーズンの上陸回数はすでに 6 回に上り、うち 3 回は産卵せずに海に戻った。3 年前にも同様の行動が観察されており、地元では「次こそ無事にたくさん産んでほしい」と願っている。

高知県 水産研究・教育機構開発調査センタ 森下さまより (6/18) 現在、高知県西部にあります鈴定置網漁場で漁業調査を実施しておりますが、昨日標識のついたアカウミガメを採捕しましたので、写真を添付いたします。放流等の情報が分りましたら、お知らせください。宜しく願います。事務局より：この個体は 2017 年 6 月 14 日に高知県須崎市大谷漁業協同組合所有定置網にて混獲され、高知大学海洋生物研究施設より調査後放流された個体でした。(放流時データ：雌、81.5cm SCL, 64.7cm SCW, 78.0kg BM、タグ：ジャンボ青 83583)

室戸基地 田中より (6/19) 本日、オサガメの死亡個体が椎名漁港の定置網に混獲されました。解剖調査を行いました。性別：雌 大きさ：SCL 124.3cm、CCL 133.2cm、SCW 69.3cm、CCW 90cm 身体の状態：頭部に擦り傷あり。口から泡をふいていた。発見場所：椎名の定置網 (沖、箱) 発見時の様子 (漁師さんからの情報) 朝持ちの漁で網を引き上げていると底からオサガメが現れた。その時にはすでに死亡を確認。

大分県 国東市 海原さまより (6/19) 毎年お世話になっています。今年も 6 月 14 日に初産卵の確認ができました。過去 5 年以上、上陸産卵はほぼ当日に確認ができていたのですが今回は道路から距離があり、あまり人が行かない浜で地域の方の連絡で現地へ行きました。(4、50年ぶりだそうです) 足跡が途中でほぼ消えていたのですが産卵巣は発見し 140 個の卵が確認できました。日数が経過しているようなので 1 個、一個、慎重に扱い直線上の少し高い場所に移殖しました。

千葉県 岡田さまより (6/19) 5/29 千葉県館山市伊戸海岸にてアオウミガメのストラディングを発見しました。甲羅の縦 48cm 甲羅の横幅 37cm でした。

千葉県 根上さまより (6/19) ウミガメのストラディングがありました。千葉県館山市の見物海岸です。どなたか目印に竹棒を立てています。事務局より：写真にはアカウミガメが写っていました。

高知県 谷岡さまより (6/20) ウミガメのストラディングがありました。場所：高知県高岡郡中土佐町上ノ加江 小草地塩浜 情報提供者：谷岡裕子 発見日：6/20 am7:10 体長 60 センチくらい事務局より：写真にはアオウミガメが写っていました。

大分県 東国東郡姫島村役場 堀内さま (6/20) 今日、姫島村の砂浜にウミガメが死亡漂着していたのでお知らせします。種類はわかりません。何でしょうか？ 事務局より：写真にはアオウミガメが写っていました。

和歌山県 新宮市海ガメを保護する会 濱野さまより (6/22) 6月21日新宮市王子ヶ浜にアオウミガメの漂着死体がありました。甲長420^{mm}・甲幅360^{mm}・全長610^{mm}の幼いアオウミガメです。腐敗が進んで雌雄は不明です。埋める道具を持っていなかったの、明日の朝埋めます。なお、今年は初上陸が6月14日熊野川河口に上陸6回も巣穴を掘るが砂利浜で産卵出来ませんでした。翌15日にも上陸この時も巣穴を5回も掘るが産卵出来ず。17日やっと産卵しました。同一個体と思われます。

室戸基地 田中より (6/22) 6月16日(金)三津漁港にタグ付きのウミガメが混獲されましたので報告します。場所：三津漁港の定置網(高知県室戸市室戸岬町)種類：アオウミガメ 大きさ：SCL94.5cm、CCL99cm、SCW72.9cm、CCW91.5cm 黄色タグ(左右の後脚)：3944?、39448 処置：前脚にインコネル2つを装着し、体サイズの測定後、放流。インコネル：15353A、15354A。タグの照会を行ったところ、エバーラスティング・ネイチャーさんによって2005年7月4日父島初寝浦海岸にて放流された個体でした。(当時の大きさ：SCL95.0、SCW74.4、CCL98.9、CCW92.4)

室戸基地 田中より (6/23) 漂着情報の連絡が入り、調査に行きました。日にち：2017年6月23日場所：高知県室戸市元甲 元海岸 種類：アオウミガメ 状態：死亡 体サイズ：標準直甲長659mm 処置：体サイズ計測後、浜に埋設 情報提供者：山下やえさん

紀宝町ウミガメ公園 岡崎より (6/23) 漂着情報の連絡が入り、調査に行きました。日にち：2017年6月23日場所：三重県南牟婁郡紀宝町井田(馬場地の交差点前の浜)種類：アカウミガメ 状態：死亡 体サイズ：標準直甲長659mm、最小直甲長657mm、標準直甲幅557mm 処置：体サイズ計測後、浜に埋設 情報提供者：紀宝町住民から紀宝町役場へ連絡

大分合同新聞より (6/25) ウミガメの産卵地環境を守るため清掃 砂流出防ぐ竹垣作りもウミガメの産卵地となっている大分市馬場の磯崎海岸で24日、清掃活動などの環境保全イベントがあった。トヨタ自動車全国協賛している環境保護活動「アクアソーシャル フェス! 2017」の一環。日本文理大学と大分合同新聞社が主催。大学生や地元住民ら約100人が、砂浜に散乱していたごみや流木を拾った後、海岸から砂の流出を防ぐ竹垣作りに汗を流した。作業後にはおにぎりや豚汁が振る舞われた。

会場では、NPO法人おおい環境保全フォーラム(大分市)の中井真理子さんが、ウミガメの生態や産卵に適した環境などを説明するミニ講座もあった。参加した大分市桃園小4年の塩川皓貴(こうき)君(9)は「海岸からごみがなくなり、ウミガメがもっと戻ってきてほしい」と話した。

■ウミガメ速報 17-11(7/20)

鹿児島県 奄美大島 水野より (6/27) 種子島にて産卵した個体に標識が付いていました。日時：2017年6月27日1時35分 場所：種子島 南種子町前之浜東 標識：右 インコネル JP75964 ついていた(90度折れ曲がっていた)右 インコネル JP8829 つけた 左 プラ 6660 つけた左 PIT 39214500277893 つけた サイズ：SCL 851MCL 843 SCW 676 備考：背甲右臀部欠損、椎甲板最後に割れあり 事務局より：2011年に室戸より放流された個体でした。日時：2011年6月26日 場所：三津漁港(高知県室戸市室戸岬町) 標識：右前 インコネル 75964 左前 インコネル 75963 右後 プラ タグ 78855 左後 プラ タグ 78854 サイズ：SCL 830mm MCL 826mm SCW 677mm CCL 881mm CCW 781mm BW 81.6kg 備考：背甲末端縁甲板一部欠損

静岡新聞より (6/28) 足障害のウミガメと交流10年 御前崎の監視員・大沢さん御前崎市ウミガメ保護監視員の大沢茂美さん(81)はアカウミガメの産卵シーズンのこの時期、同市の海岸でほぼ毎年、1匹のカメと再会する。左後ろ足の一部が欠け、大沢さんが「左足欠損亀(がめ)」と名付けた。欠損亀にとって困難な穴掘りを手伝ったり、一緒に海岸を散歩したりして、自身の「亀日誌」に書き留めている。克明な記録からは深い愛情がにじむ。

神戸大学 河田さまより (6/29) 淡路島で打ちあがっていたアカウミガメの写真をお送りしたくご連絡させていただきました。場所は淡路島の 34.19363889, 134.73083333 付近です。事務局より：写真にはアカウミガメが写っていました。

NATIONAL GEOGRAPHIC より (6/29) ウミガメの子、毒もつクラゲを食べるオーストラリアのサンゴ礁、グレート・バリア・リーフで、アオウミガメの子どもがクラゲを食べている動画が撮影された。世界には7種のウミガメが生息し、そのほとんどは雑食で、クラゲを含め何でも食べる。しかし、アオウミガメは成長するとほぼ草食に落ち着く。若いアオウミガメは、確かにクラゲも食べるのかもしれないが、いつも食べている海藻が減っているため、しかたなく食料の質を落としているということも考えられる。(元記事より一部抜粋)

時事通信より (7/3) [イオン株式会社] 取組み 6年

目 売上金の一部を NPO 法人日本ウミガメ協議会へ寄付しますイオングループの株式会社コックスは、主要ブランド「ikka (イッカ)」から「ブルーオーシャンプロジェクト」の支援商品 3 型を発売します。2017 年 7 月 10 日 (月) より全国の「ikka」約 150 店舗ほか、各 WEB ストアにてお買い求めいただけます。本年の支援商品は、コックスが同プロジェクト参加企業で初めて「しゃべるタグ」を導入し、お客さまに活動についてより理解して頂ける仕様です。

北海道大学海亀研究会 清水さまより (7/4) 本日、標識放流アカウミガメを再捕し、再放流致しましたのでお知らせいたします。2017 年の 1 頭目です。

アカウミガメ メス ジャンボタグ青 JPN 13015 前右足 ジャンボタグ青 JPN 13016 体長：直甲長 80.3 cm、直甲幅 63.3 cm 甲高さ 29.0 cm、重量 76.0 kg 事務局より：2017/2/12 に野間池の定置網より放流された個体でした。 体長：SCL817mm MCL796mm SCW634mmCCL842mm CCW729mm

神奈川県 石井さまより (7/5) いまだに産卵上陸を確認していませんが、またタグ付きウミガメの死骸漂着がありましたので、ご報告いたします。 神奈川県茅ヶ崎市白浜町 アオウミガメ、未成熟メス (卵巣確認) SCL347mm SCLmin342mm SCW308mm 左後肢 JP88862 右後肢 JP88863 以上です。 事務局より：2015/7/30 に父島から放流された個体でした。

宮崎県 門川町教育委員会さまより (7/5) 今朝、門川町庵川漁協の漁師さんからウミガメ混獲の情報がありました。写真を添付して報告いたします。また、連絡をするのを忘れていましたが 6 月 22 日にも同じ場所で混獲がありました。こちらは記録していませんが、写真を添付します。混獲 (発見) 日時：平成 29 年 7 月 5 日 (水) 朝場所：門川沖の乙島東側に位置する定置網種類：※写真添付 甲羅：長さ 44 センチ (頭を含むと 57 センチ) 幅 37 センチ記録後、沖に放しました。 事務局より：写真にはアオウミガメが写っていました。

室戸基地 田中より (7/5) 昨年 12 月に室戸で放流した個体が再び室戸の定置網にかかりました。再捕情報と放流情報は下記のとおりです。 [再捕情報] 発見日：2017 年 7 月 5 日 場所：高岡漁港 (高知県室戸市室戸岬町) 種類：アオウミガメ 大きさ：SCL706mm、CCL750mm、SCW554mm、CCW699mm インコネル：10918A、10919AP タグ：101446 [放流情報] 日時：2016 年 12 月 28 日 場所：三津漁港 (室戸市室戸岬町)

紀伊民放より (7/6) 千里の浜を毎晩巡回 ウミガメ保護でみなべの青年らアカウミガメの産卵地として知られる、和歌山県みなべ町山内の千里の浜では毎年この時季、地元の青年クラブみなべ、同クラブ

の会長OBで組織するみなべウミガメ研究班が調査、保護に協力している。約 1 カ月間、毎晩浜を歩き、上陸や産卵状況を見て回る。

鹿児島県 野間池 宮内さまより (7/8) 野間池定置網で標識つきのウミガメの混獲がありました。標識：4557 種：アオウミガメ処置：そのまま放流 (計測なし) 事務局より：鹿児島県大島郡へ配布した標識でした。現在調査中です。

宮崎県 日向市 有限会社神代丸水産さまより (7/8) 日向市細島・飛鳥の定置網で標識のついたウミガメの混獲が 2 件ありました。①日付 2017/6/17 標識 15327-A、15328-A ②日付 2017/7/5 標識 6205 事務局より：①当会室戸基地より放流された個体でした。[放流情報] 発見日：2017 年 6 月 4 日 場所：三津漁港 (高知県室戸市室戸岬町) 種類：アカウミガメ 大きさ：SCL875mm、CCL865mm、CCL901mm、SCW713mm、CCW854mm②鹿児島大学へ送った標識でした。現在調査中です。

茨城県 鹿嶋市役所環境政策課より (7/12) 本日、茨城県鹿嶋市下津 (おりつ) 海岸でアカウミガメの死体漂着がありました。状況：海水浴場の砂浜に半分埋まっている 大きさ：目測 全体で 50cm ほど。甲羅は 30cm ほど。 埋設をする予定です。

三重県 赤阪さまより (7/13) 昨日、19 時 30 分ごろにウミガメの漂着死体の件につきまして電話させて頂きました、赤阪です。漂着場所は三重県北牟婁郡紀北町三浦豊浦海岸 (座標：34° 09'55.7"N136° 17'25.4"E) で、ウミガメの大きさは約 80 ~ 90cm でした。

岩手県 大船渡土木センター 森山さまより (7/13) ウミガメの死体漂着がありました。写真をお送りします。場所は岩手県大船渡市大船渡湾です。 事務局より：写真にはアカウミガメが写っていました。

岩手県 大船渡市綾里漁協 大森さまより (7/13) 定置網にウミガメがかかり、足にタグをつけていました。 標識：JPN101496 (左後) 左前に金属標識あり 種：アカウミガメ 再発見場所：岩手県大船渡市綾里湾の定置網再発見日時：2017 年 7 月 13 日 6 時 40 分ごろ 処置：生きたまま放流事務局より：当会室戸基地より今年の 2 月に放流した個体でした。 [放流情報] 発見日：2017 年 2 月 26 日 場所：三津漁港 (高知県室戸市室戸岬町) 種類：アカウミガメ 大きさ：SCL621mm、MCL608mm、CCL652mm、SCW519mm、CCW632mm インコネル：14485A、14486A P タグ：101496

静岡新聞より (7/13) 蒲原海岸でウミガメ産卵 2008 年以來の確認 静岡静岡市は 12 日、同市清水区蒲原の蒲原海岸でことし初めてウミガメの産卵

を確認したと発表した。同海岸での産卵確認は記録が残る2008年以降初めて。イベントの準備で同海岸を訪れていた関係者が同日、ウミガメの上陸跡を発見し、市環境創造課に報告した。市の担当者が周辺を掘り、地下30~40センチ付近にアカウミガメの卵98個を発見した。卵の状態から11日夜から12日朝にかけて産卵したとみられるという。産卵場所は高波にさらわれる危険があり、人通りも多いことから、卵は東海海洋学部で保護した。市は「7月はウミガメの産卵時期。海岸で見つけたら触らずに情報提供してほしい」と呼び掛けている。

長崎新聞より (7/15) 3年ぶりにウミガメ卵発見長崎
市脇岬町の脇岬海水浴場で14日、ウミガメの卵
が見つかった。絶滅危惧種のアカウミガメとみられ、
脇岬での産卵は3年ぶり。住民らは前回同様に無事
にふ化することを願い、「卵に触れず静かに見守っ
て」と呼び掛けている。

■ウミガメ速報 17-12(8/2) 仔ガメの孵化情報がチラ
ホラと届き始めました!

鹿児島県 阿久根市役所より (7/18) 鹿児島県阿久
根市脇本海岸で定置網にウミガメがからまって溺死
していました。標識 JPN13637 がついていました。

事務局より: 鹿児島県野間池の定置網に先月配ら
れた標識でした。現在放流情報の確認中です。

兵庫県 淡路島 佐々木さまより (7/24) 7/23 の夕
方、釣りの最中にウミガメの死体を見つけました。
場所は淡路島のすもと港です。漁港の奥の方でひっ
くり返って浮いて流れているのを遠くから見まし
た。全長 1m も無いように見えました。離れていた
のでタグについてはわかりません。事務局より: 写
真にはアカウミガメが写っていました。須磨海浜水
族園で調査に行かれたとのこと。直甲長
843mm のメス個体でした。

高知県 四万十市 溝渕さまより (7/24) 5/6 産卵
の子ガメが脱出していました。足跡も60くらい数
えることが出来たので、先ず先ずの孵化率では
ないでしょうか。

千葉県 館山市 小倉さまより (7/25) ウミガメの
ストランディングがありました。場所は館山市の野
房というバス停下にある砂浜で、海岸名は特になく
地元の方は野房の浜と呼んでいます。ウミガメは甲
長 70 cm ほどで、かなり腐敗が進んでいました。特
に処理せずそのままですが、満潮で既にないかもし
れません。

大分県 おおいた環境フォーラムさまより (7/27)
7月24日に当法人の附属施設はざこネイチャーセ
ンターのある間越(はざこ)地区の定置網に、貴団
体の標識を付けたウミガメが混獲されましたので

お知らせいたします。発見日: 2017年7月24日 カ
メ種: アオウミガメ 甲長: 40.6cm 甲幅: 36.0
cm 既存標識: 【インコネルタグ】JP15390-A (左
前肢)、JP15391-A (右前肢)、【マルチフレックス P
型タグ (黄)】101596 (左後肢) 状態: 生存。保護
水槽で保護しています。事務局より: 7/2 に当会
室戸基地より放流された個体でした。発見日:
2017年7月2日 場所: 三津漁港 (高知県室戸市
室戸岬町) 種類: アオウミガメ 大きさ:
SCL40.7cm、MCL40.3cm、CCL42cm、SCW35.8cm、
CCW41.6cm

おくとま経済新聞より (7/29) 「困ったときのカメ
頼み」 自由研究にお困りの名古屋キッズには「名
古屋港カメ類繁殖研究施設」がおすすめ名古屋キ
ッズに紹介したいのが、シャチの繁殖で知られてい
る名古屋港水族館のすぐそこにある研究施設。この研
究施設「名古屋港カメ類繁殖研究施設」といい、水
族館に併設されたウミガメ類の研究・繁殖のための
施設です。水族館から歩いて数分、港のふちにある
この研究施設は国内外の水族館関係者や研究者との
共同で、ウミガメの生態を解明する研究を行って
おり水族館が開館している間はなんと無料で入るこ
とが出来てしまいます。

毎日新聞より (7/29) アカウミガメ 114個産卵
2014年以来、下田の砂浜 / 静岡下田海中水族
館 (下田市三丁目) は28日、同市田牛 (とうじ)
の砂浜でアカウミガメの卵114個を見つけた。足
跡が見つかったという住民からの連絡を受け、砂を
掘り起こして調査したところ、深さ約20~50セ
ンチにあった。アカウミガメは県指定の希少野生動
植物。同館は1991年から市内での産卵調査を実
施している。昨年は吉佐美大浜に上陸が1回あつた
が産卵はなく、同市での産卵は2014年以来とい
う。

三重県 紀宝町ウミガメ公園 岡崎より (7/29) 漂
着情報の連絡があり、調査に行きました。[漂着個体]
日にち: 2017年7月29日 場所: 和歌山県那智
勝浦町宇久井 (宇久井海水浴場の西側) 種類: 不
明状態: 死亡 体サイズ: 標準直甲長 853mm、最
小直甲長 845mm、標準直甲幅 680mm 状態: 頭部、
四肢なし 処置: 体サイズ計測後、浜に埋設 情報
提供者: 宇久井住民

鹿児島県 奄美海洋展示館施設 奥さまより
(7/30) 奄美大島大浜海岸で今シーズンの初孵化確
認しました。7/30 午前、砂に埋もれていたアカウミ
ガメ 9頭を保護し、奄美海洋展示館で飼育をはじめ
ました。

沖縄県 恩納村 与儀さまより (7/31) 沖縄県恩納
村の浜辺でウミガメ産卵から59日目に19匹以上が
海に帰りました。

沖縄県 黒島研究所 若月より (7/31) 那覇空港近くの豊崎美ら SUN ビーチ (豊見城市) という人工ビーチで産卵したアカウミガメの産卵巣が7月30日の夕方、ふ化脱出が確認されました。このビーチでは過去にも孵化脱出が確認されていますが、照明に誘因され、陸側で多数の子ガメの死体が発見されたことがあります。今回はビーチの管理事務所側が孵化脱出が起こり次第、照明や自動販売機を消灯するという対策を約束してくれていたことから、我々も管理されたビーチでの良い先例にならないかと注視していました。幸い今回は夕日があるうちに脱出が起こり、海へ無事に向かうことができましたようです。丁度イベント中で多くのギャラリーが旅立ちを温かく見守りました。

 世界報道写真展 2017 より (7/31) 自然の部 単写真「スペイン領カナリア諸島のテネリフェ沿岸で、漁網に絡まり泳げずいるウミガメ」が1位になりました。写真展の詳細は <http://www.asahi.com/event/wpph/about.html> をご覧ください。

 和歌山県 エビとカニの水族館より (8/1) 和歌山県湯浅町栖原海岸で孵化があったので調査に行ってきました。90個の殻を確認しました(殻のみ53個、発生初期5個、発生後期32個)。

 産卵も落ち着き、いよいよ孵化シーズンへと入りました。速報で紹介した美ら SUN ビーチは AKB の総選挙会場に予定され、大きな注目と批判を浴びました。総選挙に対し、「会場変更せよ」とか「中止せよ」といった内容です。しかし、人工ビーチは人間が利用する目的で造られたビーチです。だからといってウミガメの卵を無視することはできません。「移植すれば良い」という意見も寄せられましたが、移植を正解にしてしまうと大変なことになってしまいます。黒島研究所では2014年から3年間にわたり沖縄本島の人工ビーチの産卵実態を調べました。38か所のうち、半数以上の23ビーチで産卵が確認されています。それ以前の情報も合わせればもっと増えます。誰が移植作業を?どこへ移植を?といった新たな課題が増えます。たとえ人工ビーチであったとしても、お母さんウミガメの選択を尊重し、可能な限り見守るという方法がベターではないかと私は思っています。残念なことに、沖縄では今もなお新たな人工ビーチを建設中です。(黒島研究所 若月)

■ウミガメ速報 17-13(8/28)

 第38回国際ウミガメシンポジウムの発表受付を開始しました!今年度の第28回ウミガメ会議は、国際会議と合同になります。ホームページでは宿泊案内、会場アクセス等の情報も更新しています。詳細はこちらをご覧ください! (略) 今年度のウミガメ

会議は2018年2月18日~23日の開催です。例年と開催時期が異なりますのでご注意ください。※参加申し込みは現在準備中です。今しばらくお待ちくださいませ。

 沖縄県 恩納村 与儀さまより (8/5) 沖縄県恩納村の浜辺でウミガメ産卵から56日目、58匹以上が海へと帰りました。

 神奈川県 三浦市 清藤さまより (8/7) 昨日、三浦市三戸浜にてウミガメの死骸を見かけましたのでご報告いたします。釣り糸が体に絡まりついていました。大きさは目測で約50cmでした。事務局より:写真にはアオウミガメが写っていました。

 毎日新聞より (8/7) 保護ウミガメ放流、参加者募集 男鹿・入道崎周辺の海で20日 / 秋田男鹿水族館G A O (男鹿市) で開催中の夏期企画展「小笠原~ウミガメがつないだ、東京と秋田~」で展示されているアオウミガメの放流会が20日、保護された同市北浦の入道崎周辺の海で開かれる。参加者を募集している。カメは、2016年12月に定置網にかかっているのを漁業者が見つけた水族館に連絡。水族館が保護した。ひれに付いた個体識別用のタグから小笠原諸島・父島(東京都小笠原村)にある小笠原海洋センターが調査や保護活動の一環で15年7月に放流したカメだったことが判明。太平洋から、はるばる日本海へやってきたと話題になった。

 高知県 室戸基地より (8/8) 本日、椎名海岸にウミガメの死体があり、調査しました。場所:高知県室戸市室戸岬町椎名海岸 種類:アカウミガメ 状態:死亡(頭部なし) 体サイズ:標準直甲長793mm、最小直甲長778mm、標準直甲幅653mm 処置:体サイズ計測後、浜に埋設

 佐賀県 有限会社智美潜水港湾さまより (8/13) 本日、有明海でウミガメが漁の網(クラゲ網)に入りましたのでその時の写真を送ります。ウミガメはすぐに網から放しました。ウミガメにタグがついていましたので何か情報が得られたらと思います。事務局より:写真の標識を確認したところ、2015年7月17日に宮崎野生動物研究会によって放流されたアカウミガメでした。(宮崎市松崎海岸産卵個体、甲長88.7cm、甲幅69.6cm 新規プラタグ100571(右前) 新規金属98096(左前))

 徳島新聞より (8/14) 世界最高齢「浜太郎」67歳 祝う 徳島・うみがめ博物館 美波町日和佐浦の日和佐うみがめ博物館カレッタで飼育されている世界最高齢のアカウミガメ「浜太郎」が13日、67歳の誕生日を迎え、来館者ら約100人から祝福を受けた。

 東京都 方波見さまより (8/16) 昨日、朝に葉山一色海岸から久留和漁港へ SUP のトレーニング漕ぎ

中に初めて出会うことができました。もちろん、練習は中断し遠方から撮影しました。事務局より：いただいた写真にはアオウミガメが写っていました。

西日本新聞より (8/17) 宇久島でアカウミガメ産卵スゲ浜海水浴場に100個 [長崎県] 佐世保市の離島、宇久島のスゲ浜海水浴場で、絶滅危惧種のアカウミガメの卵約100個(推計)が見つかった。同島での卵の正式な確認は初めてで、島民は何とかふ化させようと懸命だ。調査した同市の九十九島水族館海きららの川久保晶博館長は「県北では非常に希少。今後もウミガメが産卵に訪れる可能性はある」と話す。ふ化に成功すれば、環境を守り、観光PRにつなげようという機運が高まってきそうだ。

神奈川県 岩澤様より (8/20) 7/22 八重山諸島 新城島下地でウミガメを見つけました。砂浜から海へ帰るところでした。昼間の11:46でした。このような時間に上陸することはありますか。事務局より：写真からタイマイでした。大きさと尾の長さからメスと思われます。八重山諸島でタイマイが昼間に上陸したのは、これで3例目です。いずれも産卵の有無は確認されていません。

御宿うみがめパトロールさまより (8/22) 海岸沿いの街灯問題は、各地にあると思います。御宿の街灯は、全ての巣穴から子亀が脱出を終えるまで、消灯していただけることになりました。そして、オレンジのライトに切り替えるよう来年の予算案に組み込んで頂けるそうです。御宿町は大きな一歩を踏み出しました！

愛知県 名古屋市 むらいさまより (8/22) 伊良湖恋路ヶ浜にて発見しました。甲羅と骨のみになっていました。

静岡県 静岡市 熊切さまより (8/22) 8月22日に静岡市の用宗港の堤防先端付近にて大型のウミガメが時折、頭を海面から出しながらい泳いでいました。以前、焼津港でも同じ様なウミガメを見かけたことがあります。

■ウミガメ速報 17-14(9/12)

長崎県 川崎さまより (8/28) 茨城県の友人からストランディングの情報があったのでお知らせします。アカウミガメほぼ甲羅だけの状態のようです。

目測で甲長およそ50cm 発見日は8月20日死亡してからはずいぶんたつと思われます。場所は鹿島灘 茨城県銚田市の海岸です。情報は以上です。この個体のサイズも未成熟だと思いましたが、鹿島灘での未成熟個体のストランディング情報は最近でも多いのかな...また、情報があったら送ります。

宮崎県 門川町教育委員会より (8/29) 8/24 に庵川

漁港の網にタグが引っかかっていました。事務局より：タグを照会したところ 7/2 に当会室戸基地より放流された個体でした。 放流場所：室戸市三津 種類：アオウミガメ 大きさ：SCL40.7cm、MCL40.3cm、CCL42cm、SCW35.8cm、CCW41.6cm インコネル：15390A、15391A Pタグ：101596

鹿児島県 野間池 宮内さまより (8/29) 昨日網に混獲したウミガメに青タグがついていました。ジャンボ(青)：57978 57979 大きさ：MCL80.2、SCL76.0、CCL80.2、SCW61.5、CCW75.7 処置：生きていたので放流 事務局より：2007年に同野間池定置より放流された個体でした。発見日：2007年9月4日 種類：アオウミガメ 大きさ：SCL58.3cm、MCL57.9cm CCL61cm、SCW49.5cm、CCW56.8cm

宮城県 仙台河川国道事務所より (8/29) 昨日、仙台湾南部海岸にてアカウミガメのストランディングがありました。甲羅のサイズは直甲長70cm、直甲幅55cmでした。右前脚部にタグがつけられており、番号は「JP14801-A」でした。住所は宮城県山元町高瀬字東北谷地山元海岸です。埋設の予定です。よろしく願います。事務局より：標識を確認したところ、岩手県大槌町で東京大気海洋研究所が混獲調査後に放流した個体でした。混獲日 2017/7/5 場所 岩手県上閉伊郡大槌町大槌湾内の定置網 SCL: 68.4 cm SCW: 57.2 cm 体重: 52.5 kg 種: アカウミガメ 標識: 左前肢 -13401、右後肢 -13402 標識: 右前肢 -14801-A、左後肢 -14802-A 放流日 2017/7/17 場所: 宮城県石巻市狐崎浜

三重県 賢浦大敷株式会社より (8/30) 昨日、定置網にタグをつけたウミガメが混獲されたので連絡します。場所は三重県度会郡南伊勢町賢浦です。(タグ: 右後肢に101465、前肢にも金属のタグがついていた。大きさ: 頭から100-120cmくらい。)生きていたのでタグ番号確認後放流しました。事務局より：当会室戸基地より今年の1/16に放流された個体でした。場所: 室戸市椎名定置網 大きさ: SCL88.8cm、CCL90.3cm、SCW70.6cm、CCW83.1cm インコネル: 10955A Pタグ: 101465

沖縄タイムスより (9/2) 沖縄県大宜味村の海岸で絶滅危惧種のウミガメが産んだ卵のふ化率が今年は3%と、過去22年間で最低だったことが分かった。調査を続ける日本ウミガメ協議会会員の米須邦雄さん(65)は「暑さと少雨による乾燥で、成長途中の卵が死んでしまった」とみる。米須さんの調査によると、卵は平均77%がふ化する。今年アカウミガメが産んだ300個以上のうち9匹しかかえらず、3%にとどまった。これまでの最低は今年と同じように暑く、サンゴの白化が起きた2001年の56%で、これを大幅に下回った。

茨城県 鹿嶋市 五十嵐さまより (9/4) ウミガメ

が浜に打ちあがって死んでいました。腐乱している状態です。場所は茨城県神栖市矢田部 12971-1 の浜でした。大きさは見た目で甲長80cmくらいでした。事務局より：お送りいただいた写真にはアカウミガメが写っていました。

岩手県 県北広域振興局水産部さまより (9/5) 当部管内の洋野町から、死亡漂着ウミガメの種類について相談がありました。亀の種類が特定できれば、御教示願いたくメールさせていただきました。なお、洋野町担当者からは、腐敗がひどかったため、発見されたその日(9月4日)に埋設処理したとのことです。事務局より：写真には甲長約80cmのアカウミガメが写っていました。

山口県 しものせき水族館 柿野さまより (9/6)①今朝2時出港の長門市黄波戸にある定置網に同行乗船させていただいた際に、左後肢の欠損したアオウミガメが混獲しましたので報告いたします。写真を添付いたしますのでご確認をお願いいたします。漁業元：(株)黄波戸定置生産組合 場所：長門市黄波戸沖合種類：アオウミガメ 背甲長：約45センチ 処置：写真撮影後放流②昨日一般の方からストランディング情報をいただきましたので、本日対応いたしました。種：アカウミガメ 性別：♂ 発見場所：宇部市東岐波 岐波海水浴場 背甲長：89cm 曲甲長：94cm 直甲幅：67cm 曲甲幅：89cm 発見日：9/5 処置：宇部港湾管理事務所と6日に計測後埋設

茨城県 中谷さまより (9/6) 先日、茨城県那珂郡東海村・村松の海辺でウミガメの死体を発見しました。非常に綺麗な状態でした。詳しい場所は、海岸の左側テトラポットの近くです。ウミガメ協議会の方々が、このカメをどうされるかはわかりませんが、できれば腐ってしまう前に吊ってあげてほしいです。よろしく願いいたします。事務局より：地元の水族館へ連絡をしましたが、すでに流されてしまっていたようです。

■ウミガメ速報 17-15(9/27)

沖縄タイムスより (9/21) 世界初！クロウミガメ、飼育下で繁殖成功 沖縄・海洋博公園で会えますよ 美ら島財団は20日、沖縄県本部町の海洋博公園ウミガメ館でクロウミガメの飼育下の繁殖に世界で初めて成功したと発表した。赤ちゃんガメ11匹は同館で見ることが出来る。同財団総合研究センターの河津勲上席研究員は「クロウミガメは世界的にも研究が進んでいない。今後の飼育で繁殖生態や新たな知見を得ることが出来る」と期待した。

千葉県 館山市 匿名の方より (9/10) 波左間海水浴場東端、アカウミガメのストランディングです。頭部がありません。事務局より：地域で活動されている団体に対応していただいたところ、甲長約

80cmのアオウミガメだったようです。

神奈川県 平山さまより (9/18) 本日、茨城県来栖市波崎海岸北(4つあるヘッドランドの一番北側の近傍)にウミガメの死体が漂着していました。外傷はなくガスが充満していました。標識 左後96216右後96217を装着していました。波崎では頻繁にストランディングを見ますが、標識個体ははじめてです。今後も連絡をします。事務局より：2013年に室戸基地より放流された個体でした。放流情報 発見日：2013年5月31日 場所：椎名漁港 種類：アカウミガメ 大きさ：SCL73.6cm、MCL72.9cm、CCL75.7cm、SCW55.4cm、CCW70.1cm JB タグ：96216,96217 インコネル：90337,90338 処置：体サイズ計測・標識装着後、放流。

沖縄県 琉球大学 ちゅらがーみーより (9/18) 標識のついたアオウミガメを発見しましたのでご連絡します。①JPN7501 事務局より：美ら海水族館より放流された個体でした。②JPN101404,JP9936A,JP9935A 採集日 2017/1/7 場所 沖縄県中頭郡読谷村都屋 定置網による混獲 各サイズ(cm) SCL81.4 MCL81.2 SCW66.5 腹甲68.8 記録後そのまま放流しました 備考数ヶ所に腫瘍のようなものあり 事務局より：当会室戸基地より放流された個体でした。発見日：2016年11月1日 場所：三津漁港(室戸市室戸岬町) 種類：アオウミガメ 大きさ：SCL81.4cm、MCL81.1cm、CCL84.8cm、SCW66.1cm、CCW80.1cm インコネル：9935A、9936A P タグ：101404 処置：体サイズ計測・標識装着後、放流。

千葉県 夏目さまより (9/19) 台風18号のしけのあと、浜にウミガメの遺骸がうちあがっているのを見つけました。18日は波が4m-6mくらいありました。発見日時：2017/9/19 朝場所：九十九里浜(片貝の浜) 大きさ：見た目 全体で130cmくらい、甲長100cmくらい、甲幅70cmくらい 九十九里浜はテトラポッドを置いたせいで、砂がなくなってしまう、ずいぶん様変わりしました。唯一、片貝にはまだ砂が残っているので、ウミガメがよくやってきます。事務局：お送りいただいた写真にはアカウミガメが写っていました。

岩手県 洋野町水産商工課さまより (9/20) 本日、台風18号の影響により再度、死亡ウミガメが漂着しました。つきましては、ウミガメの種類についてご教示願います。写真データ1件と印刷した写真を送りますのでよろしく願いいたします。ウミガメの大きさ体長140cm幅65cm甲羅の長さ70cm程です。なお、漂着したウミガメの処理ですが、腐敗が進んでいるので、明日20日に焼却処理する予定です。事務局より：写真にはアカウミガメが写っていました。

宮崎県 門川町教育委員会さまより (9/22) 昨日、ウミガメ混獲がありましたので報告いたします。混獲日時：平成29年9月21日(木)朝 場所：門川町遠見山下定置網 種類：アオウミガメ 体長：60センチ(甲羅長さ：40センチ) 甲羅幅45センチ 記録後、漁師さんが沖に放しました。

青森県 国立研究開発法人水産研究・教育機構 柴田さまより (9/26) 庁舎近くのテトラポットの間で、ウミガメが漂着しているのを発見しました。写真を添付致します。発見日時：2017/09/26 12:42 発見場所：東北水研八戸庁舎前から徒歩5分のテトラポット 緯度：北緯40°32'34" 経度：東経141°33'55" 第一発見者：柴田泰宙 回収の有無：テトラポットの間で高さがある場所のため、難しい。裏返すことくらいはできるかもしれない。どうぞよろしく願いいたします。事務局より：いただいた写真には甲長70-80cmのアカウミガメが写っていました。

■ウミガメ速報 17-16(11/17)

中国 Min LIU 教授より (9/26) 中国福建省の東山でタグのついたアカウミガメが見つかりました。発信機をつけて放流しました。タグ NO：JP9690.A と JP9689.A 体長は76cm、体幅は74.5cm、体重は45kgでした。事務局より：2016年7月20日に室戸基地より放流された個体でした。場所 室戸市室戸岬町三津漁港の定置網 大きさ：SCL73.2cm、MCL71.6cm、CCL77cm、SCW61cm、CCW73.7cm インコネル：9689A、9690A P タグ：101376,101377

処置：体サイズ計測・標識装着後、漁港から放流。

鹿児島県 野間池 宮内さんより (9/27) 昨日タグのついたウミガメが混獲されました。発見日：2017.9.26 場所：野間池の定置タグ：インコネル69260 プラ530 種類：アオウミガメ 大きさ：MCL95.6、SCL95.9、CCL101、SCW76.4、CCW94.2

処置：新たにジャンボタグ(青)13711、13712を装着して放流 事務局より：2013年に小笠原から放流された個体でした。

読売新聞より (9/27) 徳島大浜海岸 今季ウミガメ孵化率70%美波町の日和佐うみがめ博物館「カレッタ」は26日、アカウミガメの産卵地としての国の天然記念物に指定されている同町の大浜海岸で、今季産卵した卵の孵化ふか率が70%だったと発表した。過去10年間の平均は54%で、今季は3番目に高かった。調査は、1996年から毎年孵化シーズンに実施。同博物館の学芸員らが孵化後の卵の殻などを数える。今季は、産卵を17回確認。人工孵化場に移した卵も含め、1140個の卵から約800匹の子ガメが誕生したと推計した。 田中宇輝ひろき学芸員は「今季は海岸の巣穴を遮光ネットで覆うなどして砂浜の温度を安定させる保護対策がうま

くいった」と話した。

埼玉県 小倉さまより (9/29) 9/29 本日、朝、千葉県館山市の見物海岸で、いわゆる海ガメの死体が波打ち際に打ち上げられていました。大きさは甲羅の長さで50センチぐらいといったところだと思われます。種類はわかりません。特に大きな外傷は見受けられませんでした。誰かが連絡したのでしょうか、市役所の方と思われる男性が二人来て埋めて行きました。私の連れの方が写真を撮っています。お役に立つようでしたらお送りしますのでその旨、お知らせください。海ガメの生態が少しずつでも解明されていくことを願っております。

島根県 JF しまねさまより (10/19) 島根県松江市島根町加賀の馬島定置網でウミガメの混獲がありました。肢に標識がついていました。(左前ジャンボ青96149 右前ジャンボ青・・・46)その場で放流しました。事務局より：鹿児島県野間池の定置網より放流された個体でした。放流情報 発見日：2013年5月22日 種類：アカウミガメ 大きさ：SCL88cm、MCL87.3cm、CCL92cm、SCW69.2cm、CCW85cm 標識番号：96148,96149 処置：体サイズ計測・標識装着後、放流

神奈川県 匿名の方より (10/20) 本日アオウミガメを発見しました。場所 三重県伊勢市沖南方5マイル沖 発見時刻15時15分頃 水温23度 アオウミガメの親子が漁具(網)に引っかかっているのを切り離し海に戻って行きました。

静岡県 匿名の方より (10/28) 静岡県下田市白浜で海亀死骸を発見しました。事務局より：お送りいただいた写真にはアカウミガメが写っていました。

宮城県気仙沼地方振興事務所より (11/7) 南三陸地方卸売市場から、タグが装着されている生きたカメが持ち込まれたとの連絡があったので、詳細を報告します。発見日時：平成29年11月6日 午前 場所：宮城県志津川湾(定置網に入網) 甲羅長：44cm 甲羅幅：36cm タグNo：左前肢に青色プラスチックタグ「3437」 その他：湾内に再放流 事務局より：東京大学大気海洋研究所より放流された個体でした。 捕獲日：2017/7/31 捕獲場所：岩手県下閉伊郡山田町船越湾内の定置網 SCL：41.2cm SCW：36.1cm 体重：10.5kg 種：アオウミガメ 標識(ジャンボブルー)：左前肢13437、右後肢13438 標識(インコネル)：右前肢14837-A、左後肢14838-A 放流日：2017/10/3 放流場所：岩手県上閉伊郡大槌町大槌湾内 装着機器：行動記録計、GPS記録計

日本経済新聞より (11/14) アクアワールド大洗、クロウミガメを初展示アクアワールド茨城県大洗水族館(同県大洗町)は同館初となるクロウミガメの展示を始めた。日本近海に生息するのは珍しい種類

で、東日本の水族館で見られるのは同館が唯一だという。今回展示しているのはメスの個体。仙台湾で捕獲し、仙台うみの杜水族館（仙台市）で飼育していたもので、アクアワールドが譲り受けた。甲羅の長さは 84.5 センチメートル程度だという。（記事より一部抜粋）

 長崎県 モリヤマさまより（11/14）漁が休みだったので、イカ釣りをしていたら、海にウミガメの亡骸が浮かんでいるのをみつけました。ウミガメにはよく遭遇します。船にのっているとすぐ横で、息継ぎに上がってきたりして驚くこともあります。場所：長崎県対馬市厳原（いずはら）町 曲（まがり）漁港状態：死んでから時間が経っているようで、甲羅が何枚かはがれて、いたみがはげしい。防波堤付近浮いていた タグ：見える範囲では付いていなかった 大きさ：見た目で甲長 70 cm くらい 種類：アカウミガメのように思う

 山口県漁協 竹中さまより（11/15）昨夜 県漁協大島支店の定置網にタグ付のウミガメが捕獲されました。写真・年月日・水温などお知らせします。撮影場所：山口県萩市大島、年月日：11月14日（火）時間 23:30 頃、水温：22℃、漁業種類：定置網、タグ：青 13719 事務局より：鹿児島県野間池の定置網で混獲後放流された個体でした。発見日：2017年9月29日 種類：アオウミガメ 大きさ：SCL74.1cm、MCL73.6cm、CCL77.5cm、SCW60.3cm、CCW72cm 標識番号：13719、13720 処置：体サイズ計測・標識装着後、放流。

 山口県水産研究センターさまより（11/16）アオウミガメと思われる、標識ガメの採捕報告がありましたのでお知らせします。標識番号 JPN13719、JPN13720 曲甲長 78cm 曲甲幅 74cm 2017年11月15日萩市大島名切定置網に入網。萩市場で測定後、大島への帰港途中に放流。2017年11月16日 萩市玉江浦定置に同じ個体が入網。萩市場への入港途中に放流。事務局より：上記の個体と同個体でした。

 今年度の第 28 回ウミガメ会議は、国際会議と合同になります。ホームページでは宿泊案内、会場アクセス等の情報も更新しています。詳細はこちらをご覧ください。
http://www.umigame.org/J1/2018_koube_top.html※今年度のウミガメ会議は 2018 年 2 月 18 日～23 日の開催です。例年と開催時期が異なりますのでご注意ください。

■ウミガメ速報 17-17(12/11)

 福岡県 匿名の方から（11/20）ウミガメの漂着がありました。写真をお送りします。事務局より：写真にはアオウミガメが写っていました。

 宮崎県 門川町教育委員会より（11/24）ウミガメの混獲がありましたので報告いたします。混獲日時：平成 29 年 11 月 24 日（金）朝 6 時頃発見 場所：門川町乙島東側に位置する定置網 種類：写真添付 甲羅：長さ 42 センチ（頭からの長さ：55 センチ）幅 38 センチ 計測後、漁師さんが沖から放流しました。事務局より：写真にはアオウミガメが写っていました。

 神奈川県 皆嶋さまより（11/27）今朝、ウミガメの死骸が砂浜にあったのでご連絡しました。（朝 8:00 頃）場所は、神奈川県藤沢市の鵜沼海岸です。写真を添付します。事務局より：写真にはアカウミガメが写っていました。

 千葉県 青柳さまより（11/28）本日、海岸を散歩していたところ、ウミガメの死体を見つけたので報告させていただきます。場所 千葉県南房総市千倉の潮風公園より、白浜方面に進んで 200m 程の所です。写真も別途お送りしますのでご確認ください。事務局より：写真には 70～80 cm 程のアオウミガメが写っていました。

 兵庫県 阿部さまより（11/28）淡路島で釣りをしていると、弱ったウミガメを見つけました。泳いでいましたが、しばらく見ているとテトラポットに挟まって動かなくなりました。写真を送ります。事務局より：須磨海浜水族園が調査を行いました。種類：アオウミガメ（尾の伸び始めている亜成体のオス）サイズ：SCL 85 MCL 852、SCW 626

 朝日新聞より（11/28）ウミガメに乗って生活 新種の甲殻類「ウラシマ」と命名ウミガメの甲羅の上で暮らす新種の甲殻類を、北海道大の角井敬知講師（系統分類学）らが発見した。甲羅に乗って海中を旅する浦島太郎の物語にちなんで、「urashima（ウラシマ）」の文字を含む学名をつけ、分類学の国際専門誌に発表した。この甲殻類はタナイス目の一種。体長 2～3 ミリで、はさみを持つ。ウミガメに付着するフジツボなどを研究する日本工営中央研究所の林亮太研究員が甲羅に付着していた個体を採取して角井さんに送ったことが、新種発見のきっかけになった。（記事より一部抜粋）

 大分合同新聞より（11/28）タイマイ？ 日出の沖合に九州で発見、珍しく赤道付近に生息する絶滅危惧種「タイマイ」とみられるウミガメが日出町沿岸の定置網に掛かり死んでいるのを、地元の漁師川野武城（たけき）さん（76）が見つけた。川野さんは 25 日朝、ウミガメを確認。「見たことのない変わったカメ」と驚いた。甲長約 60 センチ、体重約 25 キロ。町内の寺で供養した後、町を通じて希少動物の調査・保護に取り組む NPO 法人「おいた環境保全フォーラム」（大分市）に引き渡した。大分マリンパレス水族館「うみたまご」（同市）

の学芸員今井謙介さん(45)によると、頭部や甲羅の形状からタイマイの可能性が高い。九州本土で見つかるのは非常に珍しいという。 同法人は運営する「はごこネイチャーセンター」(佐伯市)で、標本として保存する予定。内田桂理事長(64)は「他のウミガメとの交雑種の可能性もある。遺伝子などを詳しく調べたい」と話している。

三重県水産研究所より(11/29)九鬼定置(株)から標識ウミガメの連絡がありましたので、報告します。11月29日(水)早朝、九鬼1号網(尾鷲湾口)に標識ウミガメ入網、番号は、JPN-13478(前足)13479(後足)、種名は不明です。甲長80cm、甲幅65cmと報告を受けました。確認後、再放流したとのことです。事務局より:この個体は宮城県の仙台湾で混獲されその後東京大学大気海洋研究所より放流された個体でした。放流日:2017/10/12 放流場所:仙台湾沖(38°05'833"N,141°20'345"E) SCL:75.5cm SCW:62.8cm 体重:68.0kg 種:アオウミガメ 標識(ジャンボブルー):左前13478、右後13479 標識(インコネル):右前14877-A、左後14878-A

長崎県 総合水産試験場種苗量産技術開発センターより(12/1)漁でウミガメが混獲されました。発見日:2017年10月10日 6:50頃場所:長崎県長崎市野母崎半島樺島灯台下刺し網 種:未確認 標識:個体1 JPN13089、個体2 JPN13092 状況:同時に取れたので、標識ごとの記録がないが、一方は生存放流、もう一方は既に死亡で海洋投棄 サイズ:70-80cm 事務局より標識より鹿児島県野間池で放流された個体でした。放流日:2017/5/30 種類:アオウミガメ 体サイズ:SCL426/MCL418/SCW357/CCL440/CCW395

朝日新聞より(12/1)ウミガメ水槽大規模改修へ名古屋港水族館名古屋港水族館(名古屋市港区)の人気展示「ウミガメ回遊水槽」が大規模な改修工事のため、2日から閉鎖される。2019年3月末までを予定。ウミガメ回遊水槽の大規模改修は開館以来初めてという。改修工事では水槽前の壁を低くし子どもたちが見やすいようにしたり、ウミガメの様子をより詳しく観察できるよう水槽内の岩場の造形を変えたりするという。(記事より一部抜粋)

福岡県 福津市うみがめ課より(12/1)アオウミガメのストランディングがありましたので、下記のとおり報告します。発見日時 平成29年12月1日(金)13時00分頃 発見現場 福岡県福津市勝浦浜発見者 福津市民 確認日時 平成29年12月1日(金)15時頃 種別アオウミガメ 性別 不明 標準直甲長 665 mm、直甲幅 530 mm タグ:無しフジツボ:無し 外傷:目玉をほじられた後あり

徳島新聞より(12/3)今年の徳島県内へのウミガメ

上陸62回 過去2番目の少なさ県アカウミガメ上陸・産卵調査報告会が2日、美波町奥河内の日和佐公民館であった。今年のアカウミガメの上陸数は62回で、前年の86回から27・9%減だった。調査が始まった1999年以降、2番目に少ない。産卵の確認は23回で9・5%増となったものの、過去3番目の少なさだった。 NPO法人・日本ウミガメ協議会の松沢慶将会長(48)は「街灯が近くにあって明るかったり、砂が不十分だったりして、産卵に適した砂浜が減っている。県内で上陸・産卵せず、和歌山県など周辺の海岸を選んでいる可能性が高い」と指摘している。(記事より一部抜粋)

山口県水産研究センターより(12/4)今朝、山口県水産研究センター前の浜にウミガメの死体が漂着しておりましたのでお知らせします。2017年12月4日山口県長門市青海島大泊地先34°23.95'N131°11.69'Eアオウミガメ 曲甲長505mm 甲の左側面に傷を受けた後がありました。

国立研究開発法人水産研究・教育機構より(12/4)現在、弊所が調査を行っている高知県幡多郡黒潮町鈴地区の定置網にタグ付きのアカウミガメが混獲されましたので、連絡をさせていただきました。網に絡まったりはしておらず、状態に特に問題がなさそうでしたので、その場で放流したためサイズ等の計測は行っておりませんが、タグ番号の「JPN7447」のみ確認をいたしました。事務局より:標識より徳島県のウミガメ博物館カレッタより放流された個体でした。詳細は問い合わせ中です。

三重県 匿名の方より(12/5)H29、12月1日に三重県鳥羽市浦村町1229-45の牡蠣養殖筏にウミガメが死亡しているのを確認しました。標識番号:JPN56674 事務局より:標識より今年の6月11日に愛知県知多半島の奥田海岸から放流された個体だとわかりました。大きさ甲長:43.5cm 甲幅:35.4cm 3才のアオウミガメ(性別不明)

和歌山県 芝崎さまより(12/5)最近、ビーチコーミングという遊びに出会い、地元の浜を時々歩くようになりました。参考書として購入した「海辺の漂着物ハンドブック」に、ウミガメの死体の漂着を発見したらこちらに連絡を、と書かれていたのでご連絡いたします。先週末の12月1日(金)に上浦の浜にてウミガメの死体に出会いました。場所は辻自動車さんの真西の砂浜です。大分腐敗していましたが、既にどなたかが報告しているかもしれません。また、スケールを持ち歩いていなかったため、長靴(縦の長さが25cm程度)をその代わりに当てております。

沖縄県 阪本さまより(12/5)この度、ウミガメの死体が発見しましたので連絡いたしました。場所は沖縄県名護市、真喜屋公園の浜に2匹のウミガメの死体がありました。あまりにも可哀想だったので連

絡いたしました。事務局より：美ら海水族館が調査されました。

 NHK NEWS WEB より（12/8）ウミガメも新年準備恒例の「あか落とし」ウミガメの産卵地として知られる徳島県美波町の海岸近くにある博物館では、新年を前に、飼育しているウミガメの甲羅についたこけなどを洗い流す「あか落とし」が行われました。8日は、博物館の学芸員や町の職員などが、水を抜いた屋外プールで25頭のウミガメの甲羅やヒレをたわしでこすって、こけなどを丁寧に洗い流しました。このうち、飼育の記録が残るアカウミガメとしては国内最高齢とされる67歳の「浜太郎」は、この1年も餌をよく食べ元気に過ごせたということで、長さおよそ90センチの大きな甲羅や顔などを入念に洗ってもらっていました。（記事より一部抜粋）

 毎日新聞より（12/9）アカウミガメ3世代目誕生 海洋博公園、繁殖成功 / 沖縄【本部】本部町の海洋博公園管理センターは8日、同公園ウミガメ館が、アカウミガメの3世代目の繁殖に成功したと発表した。同館では初で、国内でも珍しいという。1995年にウミガメ館で生まれた雌のアカウミガメが今年5～6月にかけて産卵した。その卵から7月22日～8月1日に、飼育下で3世代目となる22匹の子ガメが生まれた。アカウミガメの性的な成熟は20～30年かかると予想されてきた。今回は22歳で繁殖に成功し、これまでの考えを実証する結果になった。3世代目の子ガメは現在、体長約12センチ。ウミガメ育成プールで元気に泳ぐ姿が公開されている。（記事より一部抜粋）

うみがめニュースレターに投稿される方へ

本誌はウミガメに関する国内唯一の総合情報誌として、関連するあらゆる情報を取扱い掲載しています。記事は投稿を原則として、生物学的知見はもちろんのこと、うみがめに関わる民俗、保護、論評や意見などの他に、英文誌に掲載された論文の和訳なども含みます。

投稿原稿は大きく2種類、

査読なしの「報告論文・観察記録・エッセイ・会議参加報告・論文紹介など」と
査読ありの「原著論文」です。

査読なしの原稿は形式を特に定めるものではなく、下の投稿規程に沿う必要もありません。どうぞお気軽にご寄稿ください。

この他に、査読を必要とする和文原著論文も受け付けます。**原著論文を希望される方は**、投稿時にその旨を編集委員にお伝え頂き、**下記の投稿規定に従って**原稿を書いて下さい。

なお、本誌はISSN番号の登録を受けた定期刊行物で、海外の研究者へも配布しております関係上、編集の際に英文の要旨とタイトルをつけております。予めご了承ください。

【うみがめニュースレターへの原稿送付先と本誌に関わる連絡先】

E-mail: newsletter@umigame.org

〒573-0163 大阪府枚方市長尾元町 5-17-18-302

日本ウミガメ協議会内 うみがめニュースレター編集委員会 石原孝

原著論文（査読あり論文）の投稿規定

～専門家の審査を希望されない方は以下の形式に整える必要はありません～

(2012年12月31日制定)

(2013年5月10日改定)

1. 投稿資格

うみがめニュースレター（以下、本誌）に投稿される原著論文は、原則として未発表のものとするが、うみがめニュースレター編集委員会（以下、本会）の協議により、特に有益と認められる場合はその限りではない。

2. 査読

本会の選任した2名の査読者によって、原稿の審査を行なうこととする。内容に問題があると判断された場合は、本会として著者にその旨を通知する。

3. 原稿の提出方法

本誌への投稿原稿は、E-mailによる電子ファイルの送付を基本とするが、郵送でも可能とする。電子ファイルは、テキスト形式のファイルやマイクロソフト社製ワードなど標準形式のファイルを用いること。なお、郵送の場合でも、可能な限り電子媒体（CD-

ROMなど）に保存した電子ファイルを同封する。

4. 原稿の用語と表記

- 1) 原稿は日本語を用いて、1ページの構成は1行25文字、24行とする。句読点は、「,」「.」を用いることとする。
- 2) 本文中に最初に出てきた生物の種名は、標準和名と学名を併記し、標準和名はカタカナ表記、学名はイタリック体指定を行なうこととする。
例 アカウミガメ *Caretta caretta*
- 3) 本文中にて著作物を引用する場合は、次の表記に従うこととする。著者が3名以上の場合は和文では「ほか」、英文では「et al.」を用いる。
- 4) 地名はわかりやすい表現を用い、緯度経度の表記もしくは調査地を図示するのが望ましい。
- 5) 単位はメートル法を用いる。

5. 原稿の構成

原稿は原則として、「表題」（和文および英文）、「著

者名」(和文および英文),「代表者の連絡先」(和文および英文),「英文要旨 (Abstract)」,「Key words」,「はじめに」,「材料と方法」,「結果」,「考察」,「引用文献」,「謝辞」,「表」,「図」の項目から構成することとする。なお,英文要旨は300 words 以内, Key words は内容を適切に表現する英単語5つ以内とする。

6. 引用文献について

1) 本文中の引用文献の表記については下記の例を参考にすること。

例

鈴木 (1990) および田中・上田 (1995) は…
…との報告があるが (村田ほか, 2000 ; 大野, 1980a, b, 1983), …
…である (Suzuki and Ueda, 1985 ; Tanaka et al., 1998)。

2) 文献の引用方法は下記の通りとする。なお,配列順は,第一著者の姓のアルファベット順,第一著者が同一の場合,第二著者のアルファベット順,以下第三以下の著者について,上記の指示に従うこととする。すべての著者が同一の場合は発表の年号順とし,同一著者,同一年に出版された著作物に関しては表題のアルファベット順に配列することとする。この際,同一著者,同一年に発表された著作物に関しては,配列順に「a」,「b」,「c」…の記号を年号の後ろに,2000a, 2000b のように付記することとする。

雑誌などからの引用: 氏名 . 年 . 表題 . 雑誌名 巻 (号): 頁 - 頁 .

単行本からの全体引用: 氏名 . 年 . 書名 . 出版社名, 所在地 . 総頁数 .

単行本からの一部引用: 氏名 . 年 . 表題 . 引用頁 . 編集者 (編) 書名 . 出版社名, 所在地 .

例

Kamezaki, N. 2003. What Is a Loggerhead Turtle? The Morphological Perspective. p. 28-43. In: A. B. Bolten and B. E. Witherington (eds.) *Loggerhead Sea Turtles*. Smithsonian Books, Washington, D.C.

近藤康男. 1968. アカウミガメ. 海亀研究同人会, 徳島. 96p.

松沢慶将・亀崎直樹. 2008. ウミガメ類におけるマーキング法 (特集 両生類・爬虫類におけるマーキング法). 爬虫両棲類学会報 2008(2): 133-137.

Matsuzawa, Y., K. Sato, W. Sakamoto and K. A. Bjorndal. 2002. Seasonal fluctuations in sand temperature: effects on the incubation period and mortality of

loggerhead sea turtle (*Caretta caretta*) pre-emergent hatchlings in Minabe, Japan. *Mar. Biol.* 140: 639-646.

宮脇逸朗. 1994. 和歌山県串本町地先海域で捕獲されたウミガメ類とその直甲長について . p. 75-80. 亀崎直樹・藪田慎司・菅沼弘行 (編) 日本のウミガメの産卵地 . 日本ウミガメ協議会, 大阪 .

Spotila, J. R. 2004. *Sea Turtles: A Complete Guide to Their Biology, Behavior, and Conservation*. Johns Hopkins University Press, Baltimore. 227p.

7. 図・表

1) 図表はそのまま製版できるものとし, 仕上がりがサイズは半ページ幅, もしくは全ページ幅になることを考慮すること。

2) 図には下部に, 表には上部に図 1. …あるいは表 1. …と図表ごとに通し番号を記し, 図表の題名, 説明文を記す。なお, 本文を読まなくても理解できる程度の説明文を記入することとする。説明文は和英併記とする。

3) カラー図表は印刷版には適用不可であるが, PDF 版においては適用可能であるため, カラー図表を希望する場合は, 投稿時にその旨を明記することとする。

4) 写真は図の扱いとする。

5) 図表が複数ある場合は, 投稿時は1つずつ別のページに記すこととする。

6) 表および追記のテキストが含まれる図は, マイクロソフト社製エクセルに対応した形式のものを用いること。

8. 校正

校正は原則として, 本会の責任の下に行なうこととするが, 著者に校正を依頼する場合がある。

9. 別刷

PDF 版は無料で配布される。印刷版を希望する場合は, その旨を投稿原稿表紙に朱書きする。なお 10 部単位で受け付けるが, 作製費と送料は著者負担とする。

10. 著作権

本誌に受理され, 掲載された全ての内容の著作権は本会に帰属する。

日本ウミガメ協議会からのお知らせ

日本ウミガメ協議会 公式 Facebook & Twitter !!



ウミガメ協議会公式のFacebookとTwitterが始動しました！各調査基地の近況や海の生き物情報をアップしていきたいと思えます。ユーザーの皆さま、ぜひフォローをお願い致します！当会のHPトップでもご覧になれます。

Facebookページ 〈 <https://www.facebook.com/umigame.official/> 〉

Twitterページ 〈 https://twitter.com/umigame_info 〉

黒島研究所Twitterページ 〈 <https://twitter.com/kuroshimarc> 〉

むろと廃校水族館Twitterページ 〈 https://twitter.com/murosui_kochi 〉

Seaturtle goods shop でお買い物!!

Seaturtle goods shop では日本ウミガメ協議会のオリジナルグッズも販売しています！会費のお支払いやご寄付にもご利用いただけます。お支払いは各種クレジット、銀行振込、楽天銀行等からお選びいただけます。

アクセスはこちら!

<http://seaturtle.shop-pro.jp>



人気商品!!
当会オリジナル
ステッカー
300円

日本ウミガメ協議会のHPからもリンクで行けます。

■ 編集後記

今年 2 月に神戸で第 38 回目国際ウミガメシンポジウムが開催されました。国際ウミガメ学会が主催し、世界のウミガメ屋が一堂に会する、ウミガメに特化した年に 1 度のお祭りが日本で初めて開催されたのです。祭りといっても Annual Symposium on Sea Turtle Biology and Conservation と「ウミガメの生物学と保全」を冠にした極めて真面目で学際的なものですが、期間中はそこかしこでウミガメに関する熱い議論が繰り広げられています。メインテーマに「ウミガメ保護のその先に」を掲げた今大会では、個体数回復の著しい個体群もある中、保護以外のウミガメとの関わり方について、例えば教育観光資源としての活用や伝統的・民俗的な捕殺を認めることも考え始めるべきだろう、といった議論もありました。今後、この議論が深まるかどうかには、日本のウミガメ屋の意思も大きく影響していきます。これからのウミガメとの関わり方について、ご意見・コメントをお寄せいただければ幸いです。

さて、今号では原著論文 1 本、報文 1 本、日本ウミガメ協議会編纂のウミガメ速報が掲載されています。藤林氏らによる原著論文では、流れ藻に対する子ガメの反応が種別に明らかにされています。流れ藻を隠れ場所とするかしないか、種による違いが検出されており、人の目に触れない外洋に出た直後の子ガメの生態を考える上でも、興味深い内容です。亀崎氏と若月氏による報文では、アカウミガメはどういった場所で交尾をしているのか沖縄島南部や慶良間諸島の海域を舞台に探られています。これまでの交尾観察事例と併せて、国内のアカウミガメの交尾・繁殖戦略についての考察もあり、まだまだ全体像の見えないアカウミガメの交尾戦略の解明に、道を指し示しています。どうぞ記事をご覧ください。（石原）

うみがめニュースレターでは、身近な、ちょっとした出来事のお知らせや感想もお待ちしております。変な卵が見つかった、いつもは見ない場所でウミガメを見つけた、いままで付けてきた記録をちょっとまとめてみた、などなど、どんなことでも「ウミガメ」の文字が入れるものを残していきたいと思います。専門的な文章である必要はありません。気軽に newsletter@umigame.org までご相談ください。

うみがめニュースレター編集委員会
編集委員長 石原 孝
編集顧問 亀崎 直樹

編集委員
平間 茂知・河津 勲・亀田 和成・岡本 慶

Editor

Takashi Ishihara
Suma Aqualife Park, Hyogo, Japan

Editorial Adviser

Naoki Kamezaki
Okayama University of Science, Okayama, Japan
& Suma Aqualife Park, Hyogo, Japan

Editorial Board

Shigetomo Hirama
Isao Kawazu
Kazunari Kameda
Kei Okamoto

Supported by

Sea Turtle Association of Japan

2018年11月30日発行
発行 うみがめニュースレター編集委員会
〒573-0163 大阪府枚方市長尾元町 5-17-18-302
NPO 法人 日本ウミガメ協議会 内
e-mail: newsletter@umigame.org